

2012 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2013 年 3 月



公益
財団
法人

大学コンソーシアム京都

The Consortium of Universities in Kyoto

目 次

はじめに

第 1 章	2012年度インターンシップ・プログラムの実施内容と今後の課題	
	Ⅰ. プログラムの主な特徴点	1
	Ⅱ. プログラムの概要と実績	2
	Ⅲ. 各コースの紹介	5
	Ⅳ. 今後の課題	7
第 2 章	受入れ先アンケート	
	Ⅰ. 受入れ先アンケート用紙	9
	Ⅱ. 受入れ先アンケート結果	11
	Ⅲ. 受入れ先アンケート自由記述(抜粋)	20
第 3 章	受講生アンケート	
	Ⅰ. 受講生アンケート用紙	22
	Ⅱ. 受講生アンケート結果	26
	Ⅲ. 受講生アンケート自由記述(抜粋)	36
第 4 章	受講生意識調査集計結果	41
資 料 編		44

はじめに

公益財団法人 大学コンソーシアム京都(以下「本財団」)が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(以下「プログラム」)は、1997 年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして翌 1998 年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、事務局ではコーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入れ先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入れ先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。これまでに京都地域にある大学・短期大学(以下「大学」)のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ 4,100 を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、約 7,200 名の学生が参加し、受入れ先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。

また、2005 年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

本プログラムの開始以降、インターンシップは全国の多くの大学で独自の取り組みが行われ、文部科学省の調査¹⁾では、インターンシップを実施している大学は、1996 年度に 17.7%であったが、2007 年度には 67.7%となり 500 以上の大学で展開されている。また、京都地域の大学においても、その約 6 割で独自のインターンシップ事業を実施している。このようにインターンシップは、すでに普及・啓発の時期から定着の時期も過ぎ、一般名詞化しており、今後のインターンシップのあり方についての検討が必要となっている。そこで、プログラム開始 10 周年を迎えた 2007 年度より「インターンシップ研究会」を設置し、これまでのプログラムの到達点について総括を行うとともに、教育プログラムとしての今後の長期的な方向性について検討を行った。2008 年度は特色 GP の最終年度にあたり、研究成果のまとめとして報告書を作成したほか、事業開設 10 年を節目に行った受入れ先へのヒアリングや修了生等への調査結果の分析を進め、今後の展開についての提言書(インターンシップ研究会報告書)を取りまとめた。

この 2012 年度インターンシップ実施報告書は、上記の結果などを踏まえながら、1 年間を振り返り作成したものである。今後も意欲ある学生がプログラムに参加でき、これまでどおり高い満足度を維持するため、本プログラムの長期的な展望を踏まえつつ、産官学地域や大学間での連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入れ先にとってもより意義のある取り組みとなるよう活用していきたい。

出典

¹⁾ 文部科学省HP 大学等におけるインターンシップ実施状況調査(承認統計)

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/intern/1260927.htm

第1章 2012年度インターンシップ・プログラムの実施内容と今後の課題

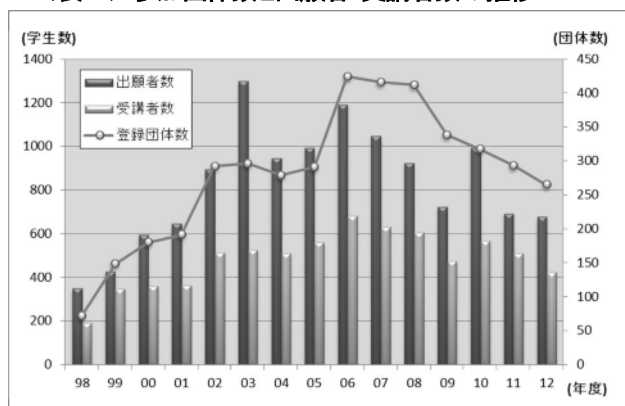
本財団が窓口となり、加盟大学が共同で運営するプログラムは、1998年度の開始から15年目を迎えた。以下、2012年度に実施してきた取り組みならびに今後の課題について報告する。

I. プログラムの主な特徴点

1. 産官学地域協働によるプログラムの充実・発展

2012年度の出願者数は676名であり、実習にあたっては、一般企業等や行政機関、NPO・NGO等の非営利組織など、さまざまな分野の企業・団体において、受講生を受け入れていただいている。また、実習内容についても営業、総務、企画、製造、広報、研究開発など多岐にわたっており、それらが包括的に運営される総合的なプログラムとなっている。

＜表I＞参加団体数と出願者・受講者数の推移



2. 京都地域にある50の大学が参加

現在、本財団には50の国公立大学が加盟しているが、受講生にとっては、このプログラムへの参加を通して、いろいろな価値観を持った他大学生と交流を図ることができるため、総合的な人間力を形成できる良い機会となっている。また、受入れ先にとっても、さまざまな大学から学生を受け入れることが大きなメリットの一つとなっている。

3. 教育プログラムとして展開

インターンシップを通して、教育と実体験による学びを融合させ、高等教育改革に直結させるという学習理念のもとにプログラムを展開した経過もあり、単に企業・団体での実習を行うだけでなく「事前学習」→「実習」→「事後学習」を枠組みとしている点が特徴である。

4. 密度の高い事前・事後学習の実施

①事前学習・事後学習

ビジネス・パブリックコースでは、受講生を受入れ先の業種別に1クラス15名程度のゼミ形式クラス編成(以下「ゼミクラス」)を行い、各ゼミクラスに加盟大学の教員であるコーディネーターを配置している。

②幅広いカリキュラム

ビジネスマナーの習得に限らず、業界研究やディスカッションを通して、実習やプロジェクトに向けての目的意識を明確にし、意欲を高めるとともに、リスクマネジメントに関する講習や、コミュニケーション等の各種スキルアップトレーニングを実施している。

③コーディネーターによる指導

本財団プログラムの特徴として、プログラムの開始当初より、事前学習から中間指導、事後学習まで、一貫して同じコーディネーターが担当していることも、学生の成長をトータルに支援するという点で意義がある。

また、プログレスコースでは、3者(学生、受入れ先、コーディネーター)による授業などを通して、受入れ先との綿密なコミュニケーションを確立してきた点に特徴がある。

＜表Ⅱ＞受講者数とコーディネーター数の推移



5. インターンシップ研究会におけるプログラムの検討

2007年度、プログラム10周年という節目を契機として、これまでのプログラムの到達点を振り返り、教育プログラムとして今後の長期的な方向性について組織的に検討する「インターンシップ研究会」を設置した。

2008年度は、①10年間のプログラムの到達点の整理として「今後の展開についての提言書」を策定、②本財団における今後のインターンシップの方向性について議論を行い、報告書を刊行した。

2009年度は、①出願者減少の調査・分析と対策の検討、②長期的展望をもとにした具体的な教務企画の検討、③報告書の書籍化検討等を行った。

2010年度は、①長期的展望をもとにした具体的な教務企画の検討、②報告書の書籍化を行った。

2011年度は、①長期的展望をもとにした具体的な教務企画の検討、②報告書の書籍化等の実施・検討を進めた。

2012年度は、2011年度に引き続き、①長期的な展望を基にした具体的な教務企画の検討、②報告書の発行を継続した。

Ⅱ. プログラムの概要と実績

1. コースの設定

コースについては、短期実践型として一般企業等において実習を行う「ビジネスコース」、同じく行政機関や非営利組織(NPO・NGO等)等において実習を行う「パブリックコース」、長期プロジェクト型として成果重視の実習を行う「プログレスコース」を実施した。

2. 学生の募集

学生募集にあたっては、本財団の加盟大学や、加盟大学以外の大学においてもご要望により募集ガイドやポスターを配布し、主にキャリア支援ご担当者様の中



心に学生への募集を呼びかけていただいた。

また、本財団所在地であるキャンパスプラザ京都における説明会において、直接、学生へ参加を呼びかけた。説明会においては、学生から積極的に質問が出され、関心の高さが窺えた。

3. 出願資格

ビジネスコース、パブリックコース、プログレスコースについては、受入れ先からの条件がある場合を除き、本財団の加盟大学の学生および大学院生であれば、学部・学年を問わず出願を可能とした。また、受入れ先に余裕がある場合は、加盟大学以外の学生や大学院生の出願も受付を行った。



1 出願コースと志望受入れ先を決定する

受入れ先は本財団の加盟大学・院生、または本財団の加盟大学・院生が所属する企業・団体から決定してください。

① 出願コースを決定する

② 志望受入れ先を決定する

③ 出願票に記入する

④ 出願票を提出し、面接を受ける

⑤ 選考結果を確認する

⑥ 受諾手続きをする

2 出願票に記入する

以下に示した記入方法を参考に、出願票に必要事項を記入してください。

① 出願コースを決定する

② 志望受入れ先を決定する

③ 出願票に記入する

④ 出願票を提出し、面接を受ける

⑤ 選考結果を確認する

⑥ 受諾手続きをする

4. 出願者数と受講者数

2012年度の出願者数は676名(2011年度690名(2%減))、受講者数は422名(2011年度507名(17%減))と、いずれも2011年度より減少した。

5. 選考・マッチング

ビジネスコース、パブリックコースについては、受入れ先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。受入れ先が選考を行う場合は、受入れ先による面接や個別に課題を設けたレポートによる選考などが実施された。なお、2012年度の受入れ先のうち、受入れ先選考をした受入れ先は73件、本財団による選考をした受入れ先は179件であった。



プログレスコースについては、長期にわたるプロジェクト型の実習である性格を勘案し、すべて受入れ先による選考とした。

6. 受入れ先企業・団体の訪問と連携

受入れ先企業・団体との連携を促進し、プログラムの質的な向上を図るため、4月に説明会を実施した。プログラム開始後の取組みとしては、ビジネスコース、パブリックコースにおいて、8月中旬から9月中旬にかけて学生が実習を行っている間に、コーディネーターが受入れ先を訪問し、学生への指導を行うとともに、受入れ先に対しても、実習状況の確認を行った。12月には、ビジネス・パブリック・プログレス全コースの受入れ先・大学・コーディネーターが一堂に会して、今年度のプログラムを振り返る意見交換会を開催した。加えて、プログレスコースについては、1月に受入れ先・コーディネーターによるプログラムの振り返り会も行った。また、すでに受入れ先として登録実績のある企業・団体へは、アンケート等で次年度の意向確認を行うとともに、本財団職員による訪問を基本として継続受入れの依頼を行った。あわせて、プログラムの質的向上に重点を置き、本財団インターンシップの意義・目的・効果を説明し、再度教育プログラムとしての位置づけの周知を図った。

7. 加盟大学・短期大学との連携

加盟大学と連携し、共同でプログラム運営を行っている。3月に大学の担当者を招き、連絡会議を開催して大学連合としてのプログラムの広報強化、意見交換、情報の共有化を行った。

また、学生に対しプログラムの説明を希望する大学には、本財団の職員が赴き、年度初めのオリエンテーション等で説明を行った。

なお、2012年度に本プログラムの単位認定を行っている加盟大学は23大学であり、大学独自でインターンシップを実施している大学も約半数に及んでいる。プログラム終了後には、受入れ先からの実習状況の評価や実習生の出席状況・レポート等にもとづき、コーディネーターが採点した成績を、各大学に提出した。

8. 受講料

選考の結果、受講生から受講料を徴収した。

①ビジネス・パブリックコース 10,000円(加盟大学以外の学生は15,000円)

②プログレスコース 15,000円(加盟大学以外の学生は20,000円)

内訳:各種保険料・施設使用料・その他、講座運営にかかる諸費用

9. リスクマネジメント

①保険

当財団では、プログラム開始から終了までの期間(実習期間を含む)、全コースの受講生を対象として保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

【普通傷害保険】

死亡・後遺障害 500万円／入院保険金日額 4,500円／通院保険金日額 3,000円

【個人賠償保険】

てん補限度額 3,000万円(自己負担額 0円)

2012年度は、保険金請求に該当する事例もなく、全ての実習を終了することができた。

②リスク管理対策室

事前・事後学習や実習等、プログラムによって生じうる情報漏えい・ハラスメント等に対し、本財団のリスク管理対策室が対応する体制を整えた。

10. 運営体制・役割

プログラムの運営にあたっては、コーディネーター、受入れ先、大学、事務局間の関係を密にすることを心がけている。受入れ先、学生所属大学、当財団については、三者協定を締結し、より安全かつ円滑に実習を進められるよう連携に努めた。

①コーディネーター

事前学習・事後学習におけるゼミクラスの運営、実習期間中の中間指導、成績評価、インターンシップ事業に関連する諸会議への出席、インターンシップ研究会におけるプログラムの策定等を担った。

②事務局

インターンシップ事業の運営に関わる全般の実務、協定書の整備、リスクマネジメント等を担った。



Ⅲ. 各コースの紹介

1. ビジネスコース・パブリックコース

このコースは、事前学習→実習→事後学習を通して、学習意欲の喚起、高い職業意識の育成、自主性・独創性のある人材育成を目標として、8月中旬から9月中旬の夏期休暇を利用し、2週間から1ヶ月程度(実働 10 日間以上)の実習を行うコースであり、単に就業体験、職業観の育成にとどまることのない教育プログラムとして構築している。

このプログラムでは、一般企業等で実習を行うビジネスコースと行政機関や非営利団体等で実習を行うパブリックコースの2コースを設定しているが、いずれのコースにおいても「事前学習(仮説の構築) → 実習(仮説の検証) → 事後学習(仮説の再構築)」という一連のプログラムをもってインターンシップ実習とした。

事前学習においては、受入れ先担当者および修了生のゲストスピーチやグループディスカッションを通して、受入れ先の業界・業種についての研究を行い、事前学習レポートを課したほか、ビジネスマナー講習やリスクマネジメント講習、また受講クラス選択制でのプレゼンテーションやロジカルシンキング等のスキルアップトレーニングを実施した。

また、事後学習では、実習を通して喚起された関心や問題意識などを今後の学生生活における学習課題やキャリア形成につなげるための総括を行い、事後学習レポートの作成と発表を行った。



なお、ビジネス・パブリックコースの事前学習・事後学習の内容については、ケーススタディの蓄積やコーディネーター報告書、受入れ先・受講生のアンケート結果などを踏まえて毎年改善を図っており、2012年度では2011年度に引き続き、事前学習 13 コマ、事後学習は 5 コマという充実した講義時間を設けた。

①事前学習

目 的：受講生が実習目的、学習目標を明確にし、実習を有意義なものとする。

内 容：・実習に対する心構えに関するオリエンテーション

・実習現場の課題に関する学習目標の明確化と仮説の構築を目的としたディスカッション

- ・ビジネスマナー講習、スキルとしてのコミュニケーショントレーニング等
- ・リスクマネジメント講習
- ・事前学習レポートの作成

②実習

目 的：日々の体験を通じて、学生自らが実習現場の課題に関する学習目標と仮説の妥当性・有効性を検証する。

内 容：・各受入れ先におけるプログラム（2週間から1ヶ月程度）
・受講生は、実習日誌を記入することとし、それに対して受入れ先担当者にコメントをいただく。



③事後学習

目 的：実習における学習目標と仮説の妥当性・有効性の検証に基づいた仮説の再構築を図る能力を学生が身につけること。さらに実習を通じて喚起された関心、問題意識、経験を今後の学生生活やキャリア形成につなげる。

内 容：・ディスカッションを通じた課題や成果の共有
・受入れ先も交えた修了パーティーにおける経験交流、振り返り
・事後学習レポートの作成

2. プログレスコース

このコースは、プロジェクトを通して、さまざまな角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることを目的として、6ヶ月程度の比較的長期間にわたり、受入れ先が提示したテーマに沿ってプロジェクトを進めていく実習を行っており、受入れ先にもメリットが明確なプロジェクトの形成を伴った教育プログラムとして構築している。

このプログラムでは、「計画→実施→評価」というプロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)の流れを教育プログラムとして体系化している。加えて、開発援助のプロセスとして用いられる、プロジェクト概念表を活用して運営・管理するよう心がけた。

プログレスコースについては、いわゆる大学での授業と異なり、コーディネーターによるファシリテーションを通じて、学生の成長を高めることに重点を置いた。中間報告や最終プレゼンテーションなどについては、プロジェクトを越えて他者からの評価も得られるような機会を設けるようにした。

また、プロジェクトを進めるにあたり、コーディネーターがかかわることはもちろん、授業には受入れ先担当者も常に参画し、プロジェクトの進捗状況の確認や今後の進め方についても連携してサポートを行った。

なお、プログレスコースについては、2012年度も2011年度に引き続き、1プロジェクトについて受講生が2名以上でなければ、そのプロジェクトは不成立とした。そのことにより複数名によるプロジェクト推進体制を確保し、チームでの共同を通じた教育効果の向上を図った。



<プロジェクト・サイクル・マネジメントの流れ>

第1段階 プロジェクト計画のプロセスを学ぶ
(プロジェクトの目標・目的、期待されるプロジェクト成果、その成果を得るための活動などについて明確にする)

第2段階 プロジェクト計画に基づいてプロジェクトを実際に推進する

第3段階 プロジェクト計画とプロジェクト成果を比較してプロジェクトのあり方を評価する

IV. 今後の課題

「インターンシップ研究会」において検討された、今後取り組んでいく課題については、以下のとおりである。

1. 教育効果の検証と長期展望

2008 年度の研究会における「今後の展開についての提言書」に基づき、今後も教育効果の検証を行うとともに、以下の長期展望に取り組むよう努めたい。

＜長期的展望＞

- ①各コースにおいて学生の専門性との関わりを重視した実習(もしくはプログラム)を強化し、学生への教育効果を高めるとともに受入れ先への貢献度を高める。
- ②現行のプログラムは維持しつつ、インターンシップ・プログラムの効果を広く加盟大学に還元する仕組みを作る。
- ③学生が主体的に運営するインターンシップ作りを図る。

2. 教育プログラムとしての充実・発展

今後の長期的展望を踏まえ、以下の 4 点を視野に入れ、数的・量的な拡大ではなく質的向上を目指し、プログラム全般の見直し、今後の方針等についても検討し、教育プログラムとしてのさらなる充実・発展を図りたい。

- ①教育プログラムとしての「高い満足度」を維持しつつ、学生の専門性との関わりを重視した実習(もしくはプログラム)を強化、学生への教育効果のみならず受入れ先への貢献度をも高める。
- ②外国人留学生が実習可能な受入れ先、日本人学生が語学力を活かして多言語が飛び交うような環境で実習に取り組めるような受入れ先を開拓していく。
- ③これまでに蓄積してきたプログラムの成果を、広く加盟大学に還元する仕組み作り着手する。
- ④学生がプログラム作りに主体的に関わるような仕組み作りについて検討し実施につなげる。

＜各コースの改善点＞

ビジネス／パブリックコース

- ・受入れ先での実習プログラムの魅力を高め、学生の専門性も活かせる領域として、日常業務での体験に留まらず、根本課題(中長期的にみて重要ではあるが、急を要するものではない業務)に取り組む実習内容の紹介や、短期間の実習でもプロジェクト形成型の実施を可能とする事例紹介等を行い、そうした実習が増えるよう受入れ先に働きかけていく。
- ・外国人留学生、障がいのある学生の実習が可能となる受入れ先を開拓していく。

プログレスコース

- ・プロジェクトテーマの設定ならびに学生の選考にあたり、受入れ先と綿密に意見交換を行う。あわせて、高度な専門性を要求する受入れ先の候補として、官公庁を中心に開拓を検討する。
- ・「学生によるプログラムの企画・立案」に向けて検討を進める。

3. プログラム運営上の課題

①意欲の高い学生の確保

- ・プログラム説明会において、就職直結型インターンシップとの対比等を通して本財団プログラムの趣旨や受講の意義、また受講にあたっての注意点の説明を徹底し、出願前の時点でのミスマッチ防止を図る。

②出願手続き時における評価方法

- ・出願手続きの段階から本財団職員による評価を取り入れる。

③学生に対する指導強化

- ・出願時のみならず受講段階においても、コーディネーターと連携を図りながら、留意点、約束事を周知徹底させる。出願等、受講前の段階での状況についても、必要に応じてコーディネーターと情報共有し、早期の働きかけによる軌道修正、トラブル防止を図る。

④コーディネーターの役割・意義の継承

- ・経験者と初任者との意見交換会を実施し、意義や役割についての継承を促進する。

⑤実習内容等の検証

- ・本財団インターンシップの意義、目的、効果等を説明し、本財団プログラムの趣旨に沿わない実習内容については、受入れ先への理解を図る。
- ・新規エントリー希望の受入れ先について、従来より厳密な基準を持って受け入れ依頼の判断を行う。

⑥学事日程にあわせた実習期間の確保

- ・受入れ先には、大学の定期試験との重複(8月上旬)を避けるため、原則として受入れ期間を8月中旬からとして依頼する。

⑦リスクマネジメント対策

- ・実習中に知り得た機密情報の取り扱い等について、守秘義務の徹底を図る。
- ・ハラスメントに対する意識の喚起、実習生からの相談に対する迅速な対応を図る。

以上

第2章 受入れ先アンケート

I-1. 受入れ先アンケート用紙(ビジネスコース・パブリックコース)

FAX 075-353-9121

インターンシップ事業推進室 行

2012年度インターンシップ 受入れご担当者 アンケート

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室

最後までお手を煩わせ誠に申し訳ございませんが、2012年度の受入れに関して以下の項目についてご意見を頂戴し、2013年度のプログラム検討のための参考させていただきたく存じます。ご協力くださいますようお願いいたします。

<恐れ入りますが9月28日(金)までにご返送ください>

A. 学生の仕事に対する態度について(複数名受入れて頂いている場合は総合的に)

1. 真実に取り組んだ 2. 普通 3. 真実さを感じられなかった

B. 学生の仕事に対する理解について(複数名受入れて頂いている場合は総合的に)

1. 理解が早く手間はかからなかった 2. 普通 3. 理解が遅く指導に手間・時間を取られた

C-1. 貴社・貴団体・貴職によって受入れのメリット・成果はありましたか

1. メリット・成果があった 2. どちらともいえない 3. メリット・成果があると感じなかった

-2. 前問で「1. メリット・成果があった」と答えた方にお伺いします。どのようなメリット・成果がありましたか(複数回答可)

1. 大学との連携強化 2. 社内活性化 3. 自社のPR・広報・宣伝 4. 優秀な学生との出会い 5. 新たな企画開発 6. 顧客情報の収集 7. その他

具体的に:

D-1. 学生自身は成果・成長があったと思えますか

1. 成果・成長があったと感じる 2. どちらともいえない 3. 成果・成長があったと思えない

-2. 前問で「1. 成果・成長があったと感じる」と答えた方にお伺いします。どのような成果・成長がありましたか(複数回答可)

1. 学習意欲の喚起 2. 自主性・独創性の育成 3. キャリア形成 4. 問題解決能力の向上 5. 多様な価値観の認識 6. コミュニケーション能力の向上 7. プレゼンテーション能力の向上 8. 社会が求める能力やスキルの向上 9. その他(具体的に:)

E. 2012年度のインターンシップに関する以下の点についてどの程度満足されていますか

	非常に満足	かなり満足	やや満足	やや不満足	かなり不満足	非常に不満足
1. 受入れた学生を総合的に見て	1	2	3	4	5	6
2. 受入れ前の学習内容について	1	2	3	4	5	6
3. 財団事務局スタッフの対応について	1	2	3	4	5	6
4. インターンシップ・プログラム全体	1	2	3	4	5	6

F-1. 2013年度のインターンシップ受入れについてお伺いします

1. 受入れる予定である [a. ビジネス b. パブリック c. プログレス]

2. 受入れない予定である (差しつかえなければ理由をお教えください:)

3. 未定 (差しつかえなければ理由をお教えください:)

-2. 前問で「1.」と答えた方にお伺いします。留学生、または障害を持つ学生の受入れについてはどのよう

にお考えですか?

★留学生について

1. 受入れは可能である 2. 受入れは不可能である

3. 条件付きで受入れは可能である (差しつかえなければ条件をお教えください:)

★障害を持つ学生について

1. 受入れは可能である 2. 受入れは不可能である

3. 条件付きで受入れは可能である (差しつかえなければ条件をお教えください:)

-3. 受入れに関して、学生に求める専門的スキルはありますか。(複数回答可)

1. なし

2. 語学【英語・中国語・その他】

3. ICTスキル【Excel・Word・Power Point・Illustrator・Web作成・CAD・その他】

4. 実習内容に関する専門的な基礎知識

5. その他(具体的に:)

G. 当財団のインターンシップについてご意見、ご要望がございましたらご記入ください

H-1. 当財団のインターンシップ以外の受入れについてお伺いします

1. 他からもインターンシップ実習生を受入れしている
2. 他からはインターンシップ実習生を受入れしていない
(差しつかえなければ理由をお教えください:)

-2. 前問で「1.」と答えた方にお伺いします。どのように受入れられていますか。

1. 公募での受入れ 2. 各大学・短期大学を通じての受入れ

3. その他(差しつかえなければお教えください:)

貴社・貴団体名:

ご所属・役職:

ご 芳 名: 協力ありがとうございました。

I-2. 受入れ先アンケート用紙(プログレスコース)

FAX 075-353-9121

インターンシップ事業推進室 行

2012年度インターンシップ 受入れご担当者 アンケート

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室

最後までお手を煩わせ誠に申し訳ございませんが、本年度の受入れに関して以下の項目についてご意見を頂戴し、次年度のプログラム検討のための参考にさせていただきます。ご協力くださいますようお願いいたします。

＜恐れ入りますが11月30日（金）までにご返送ください＞

A. 学生の仕事に対する態度について（複数名受入れて頂いている場合は総合的に）

1. 真剣に取り組んだ 2. 普通 3. 真剣さを感じられなかった

B. 学生の仕事に対する理解について（複数名受入れて頂いている場合は総合的に）

1. 理解が早く手間はからなかった 2. 普通 3. 理解が遅く指導に手間・時間を取られた

C-1. 貴社・貴団体・貴職にとって受入れのメリット・成果はありましたか

1. メリット・成果があった 2. どちらともいえない 3. メリット・成果があると感じなかった

ー2. 前問で「1. メリット・成果があった」と答えた方にお伺いします。どのようなメリット・成果がありましたか（複数回答可）

1. 大学との連携強化 2. 社内活性化 3. 自社のPR・広報・宣伝
4. 優秀な学生との出会い 5. 新たな企画開発 6. 顧客情報の収集
7. その他（具体的に）

※具体的なエピソードがございましたらお聞かせください。

D-1. 学生自身は成果・成長があったと思えますか

1. 成果・成長があったと感じる 2. どちらともいえない 3. 成果・成長があったと思えない

ー2. 前問で「1. 成果・成長があったと感じる」と答えた方にお伺いします。どのような成果・成長がありましたか（複数回答可）

1. 学習意欲の喚起 2. 自主性・独創性の育成 3. キャリア形成
4. 問題解決能力の向上 5. 多様な価値観の認識 6. コミュニケーション能力の向上
7. プレゼンテーション能力の向上 8. 社会が求める能力やスキルの向上
9. その他（具体的に）

E. 本年度のインターンシップに関する以下の点についての程度満足されていますか

	非常に満足	かなり満足	やや満足	やや不満足	かなり不満足	非常に不満足
1. 受入れた学生を総合的に見て	1	2	3	4	5	6
2. 講義内容について	1	2	3	4	5	6
3. 財団事務局スタッフの対応について	1	2	3	4	5	6
4. インターンシップ・プログラム全体	1	2	3	4	5	6

F-1. 次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします

1. 受入れの予定である【a.ビジネス b.パブリック c.プログレス】
2. 受入れない予定である
3. 未定
(差しつかえなければ理由をお教えてください)

ー2. 前問で「1.」と答えた方にお伺いします。留学生、または障害を持つ学生の受入れについてはどのようなお考えですか？

★留学生について

1. 受入れは可能である 2. 受入れは不可能である
3. 条件付きで受入れは可能である
(差しつかえなければ条件をお教えてください)

★障害を持つ学生について

1. 受入れは可能である 2. 受入れは不可能である
3. 条件付きで受入れは可能である
(差しつかえなければ条件をお教えてください)

ー3. 受入れに関して、学生に求める専門的スキルはありますか。（複数回答可）

1. なし
2. 語学（英語・中国語・その他）
3. ICTスキル（Excel・Word・Power Point・Illustrator・Web作成・CAD・その他）
4. 実習内容に関する専門的な基礎知識
5. その他（具体的に）

G. 当財団のインターンシップについてご意見、ご要望がございましたらご記入ください

H-1. 当財団のインターンシップ以外の受入れについてお伺いします

1. 他からもインターンシップ実習生を受入れしている
2. 他からはインターンシップ実習生を受入れていない
(差しつかえなければ理由をお教えてください)

ー2. 前問で「1.」と答えた方にお伺いします。どのように受入れされていますか。

1. 公募での受入れ 2. 各大学・短期大学を通じての受入れ
3. その他（差しつかえなければお教えてください）

貴社・貴団体の名：

ご所属・役職：

ご 考 名：

ご協力ありがとうございました。

Ⅱ. 受入れ先アンケート結果

2012年度受講生を受け入れていただいた企業・団体に対して、実習終了後にアンケートを実施した。以下は、その内容を集計したものである。

アンケート結果や個別の意見・要望等については、2013年度以降のプログラム策定やシラバスの改善などに役立てたい。

＜アンケート実施日＞

ビジネスコース、パブリックコース:2012年9月中旬～下旬(実習終了後)

プログレスコース:2012年11月下旬～12月初旬(プロジェクト終了後)

＜有効回答数＞

表1

	受入れ団体数	回答団体数	回答率
ビジネスコース	149	122	82%
パブリックコース	33	30	91%
プログレスコース	6	5	83%
合計	188	157	84%

※なお、以下のアンケート結果の数値は、小数点第1位を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

また、無回答は集計時に割合として含んでいない。()内は総計における無回答数の割合を示す。

＜アンケート結果＞

A. 学生の仕事に対する態度について

表2

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
真剣であった	114	93%	27	90%	2	40%	143	91%
普通	6	5%	2	7%	1	20%	9	6%
真剣でなかった	2	2%	1	3%	2	40%	5	3%
有効回答数	122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	122		30		5		157	

B. 学生の仕事に対する理解について

表3

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
理解が早い	71	58%	17	57%	0	0%	88	56%
普通	50	41%	11	37%	3	60%	64	41%
理解が遅い	1	1%	2	7%	2	40%	5	3%
有効回答数	122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	122		30		5		157	

学生の真剣さと仕事に対する理解の関連性 (AとBのクロス集計)

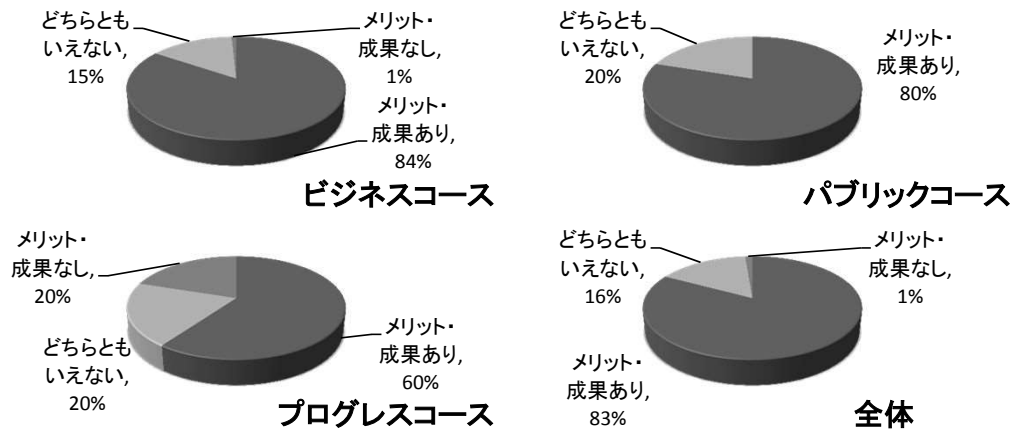
表4

		ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
真剣であった	理解が早い	70	57%	17	57%	0	0%	87	55%
	普通	44	36%	9	30%	2	40%	55	35%
	理解が遅い	0	0%	1	3%	0	0%	1	1%
普通	理解が早い	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%
	普通	5	4%	2	7%	0	0%	7	4%
	理解が遅い	0	0%	0	0%	1	20%	1	1%
真剣でなかった	理解が早い	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	普通	1	1%	0	0%	1	20%	2	1%
	理解が遅い	1	1%	1	3%	1	20%	3	2%
有効回答数		122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
無回答		0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計		122		30		5		157	

C-1. 貴社・貴団体・貴職にとって受入れのメリットについて

表5

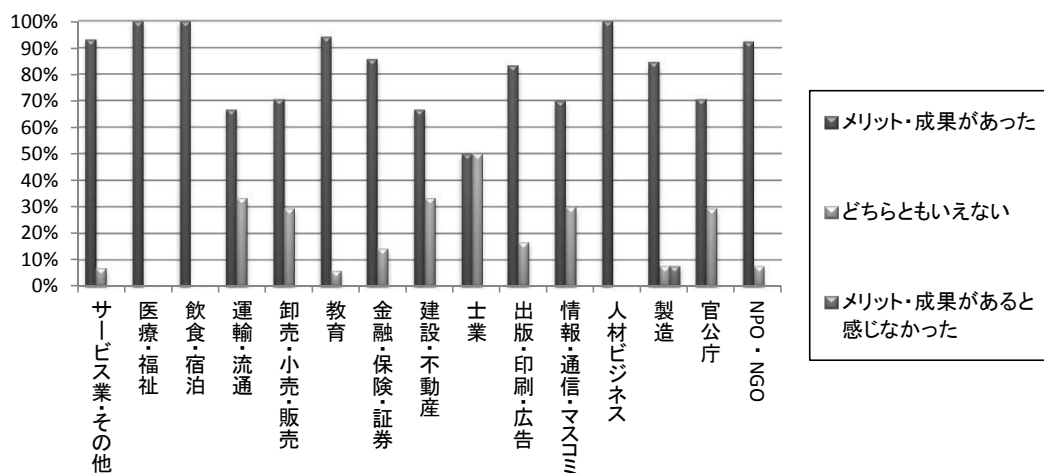
	ビジネス 回答数	パブリック 回答数	プロGRESS 回答数	全体 回答数
メリット・成果あり	103	24	3	130
どちらでもない	18	6	1	25
メリット・成果なし	1	0	1	2
有効回答数	122	30	5	157
無回答	0	0	0	0
総計	122	30	5	157



C-1'. 業種別

表6

	団体数	提出数	メリット・成果があった		どちらともいえない		メリット・成果があると感じなかった	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%
サービス業・その他	33	29	27	93%	2	7%	0	0%
医療・福祉	3	2	2	100%	0	0%	0	0%
飲食・宿泊	9	8	8	100%	0	0%	0	0%
運輸・流通	3	3	2	67%	1	33%	0	0%
卸売・小売・販売	17	17	12	71%	5	29%	0	0%
教育	17	17	16	94%	1	6%	0	0%
金融・保険・証券	12	7	6	86%	1	14%	0	0%
建設・不動産	9	6	4	67%	2	33%	0	0%
土業	3	2	1	50%	1	50%	0	0%
出版・印刷・広告	10	6	5	83%	1	17%	0	0%
情報・通信・マスコミ	13	10	7	70%	3	30%	0	0%
人材ビジネス	2	2	2	100%	0	0%	0	0%
製造	16	13	11	85%	1	8%	1	8%
官公庁	19	17	12	71%	5	29%	0	0%
非営利組織<NPO・NGO>	14	13	12	92%	1	8%	0	0%

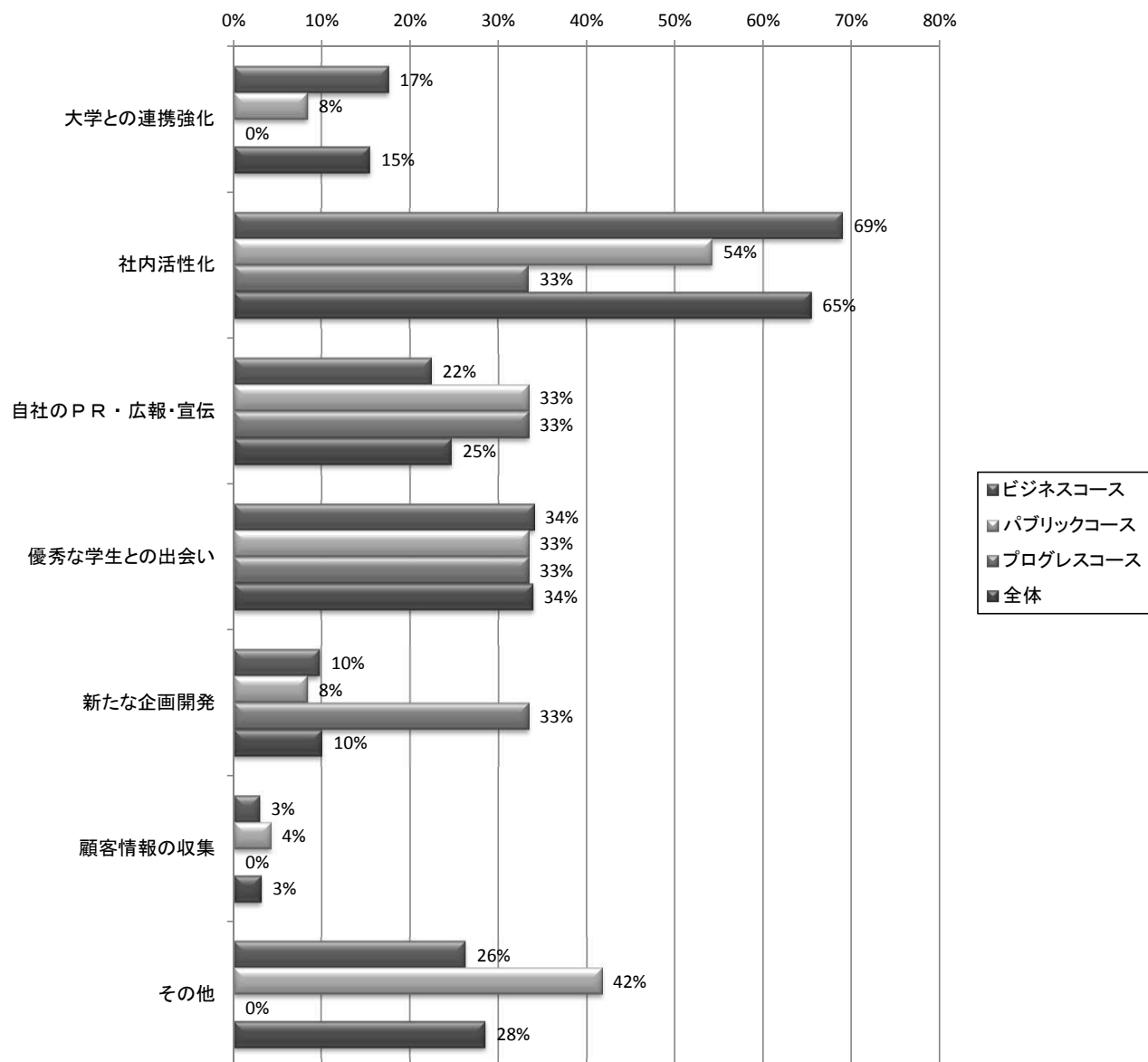


C-2. 具体的なメリットについて（複数回答）

表7

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
	回答数	回答数	回答数	回答数
大学との連携強化	18	2	0	20
社内活性化	71	13	1	85
自社のPR・広報・宣伝	23	8	2	32
優秀な学生との出会い	35	8	3	44
新たな企画開発	10	2	4	13
顧客情報の収集	3	1	5	4
その他	27	10	6	37

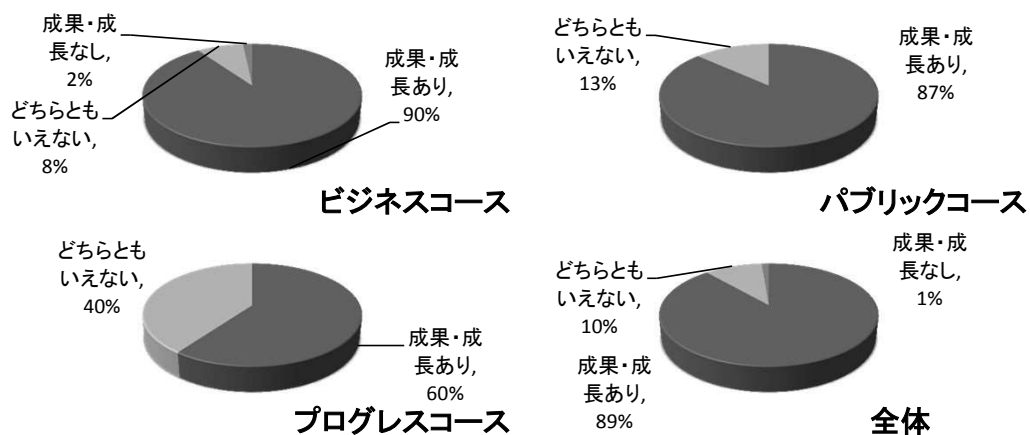
※C-1で「メリット・成果あり」と回答した受入れ先のみ回答



D-1. 学生の成果・成長について

表8

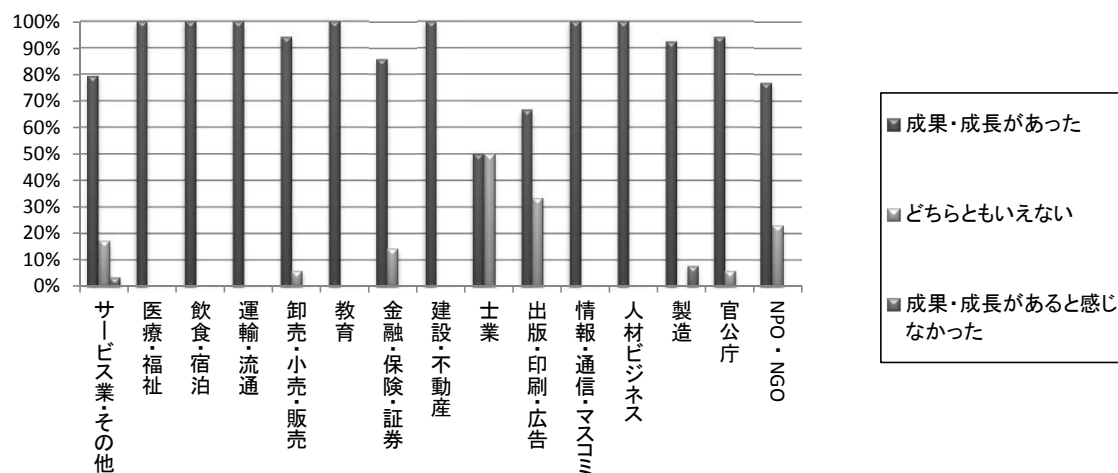
	ビジネス 回答数	パブリック 回答数	プロGRESS 回答数	全体 回答数
成果・成長あり	110	26	3	139
どちらでもない	10	4	2	16
成果・成長なし	2	0	0	2
有効回答数	122	30	5	157
無回答	0	0	0	0
総計	122	30	5	157



D-1'. 業種別

表9

	団体数	提出数	学生の成果・成長があった		どちらともいえない		学生の成果・成長がなかった	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%
サービス業・その他	33	29	23	79%	5	17%	1	3%
医療・福祉	3	2	2	100%	0	0%	0	0%
飲食・宿泊	9	8	8	100%	0	0%	0	0%
運輸・流通	3	3	3	100%	0	0%	0	0%
卸売・小売・販売	17	17	16	94%	1	6%	0	0%
教育	17	17	17	100%	0	0%	0	0%
金融・保険・証券	12	7	6	86%	1	14%	0	0%
建設・不動産	9	6	6	100%	0	0%	0	0%
土業	3	2	1	50%	1	50%	0	0%
出版・印刷・広告	10	6	4	67%	2	33%	0	0%
情報・通信・マスコミ	13	10	10	100%	0	0%	0	0%
人材ビジネス	2	2	2	100%	0	0%	0	0%
製造	16	13	12	92%	0	0%	1	8%
官公庁	19	17	16	94%	1	6%	0	0%
非営利組織<NPO・NGO>	14	13	10	77%	3	23%	0	0%

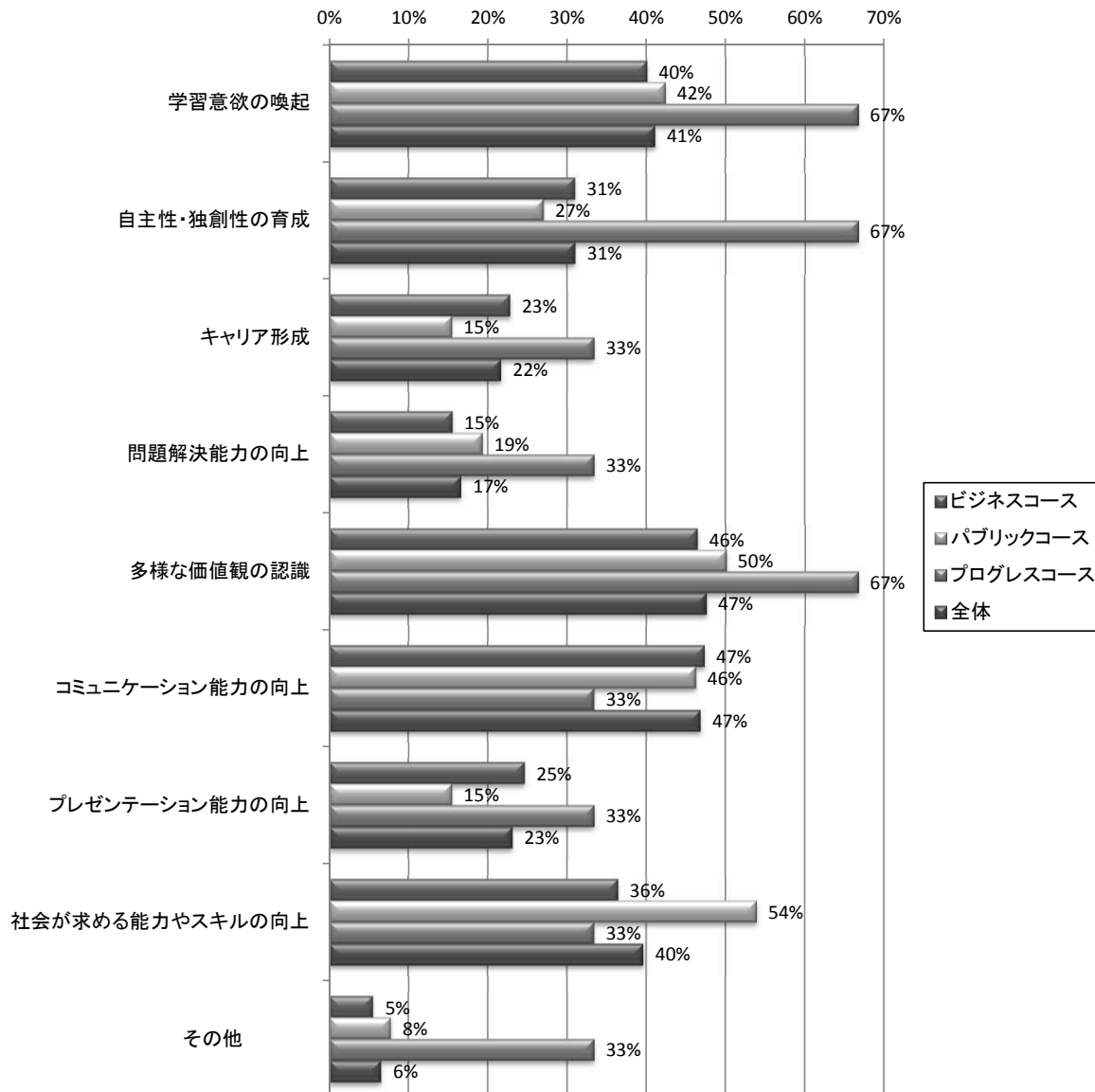


D-2. 具体的な成果・成長について（複数回答）

表10

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
	回答数	回答数	回答数	回答数
学習意欲の喚起	44	11	2	57
自主性・独創性の育成	34	7	2	43
キャリア形成	25	4	1	30
問題解決能力の向上	17	5	1	23
多様な価値観の認識	51	13	2	66
コミュニケーション能力の向上	52	12	1	65
プレゼンテーション能力の向上	27	4	1	32
社会が求める能力やスキルの向上	40	14	1	55
その他	6	2	1	9

※D-1で「成果・成長あり」と回答した受入れ先のみ回答



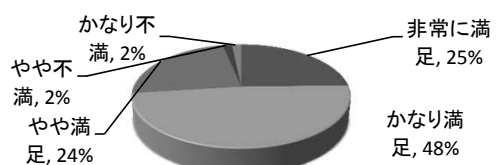
Ｅ．本年度のインターンシップに対する満足度

※平均は、各項目の回答数に評価点を掛けたものを受入れ先数で割った値である。

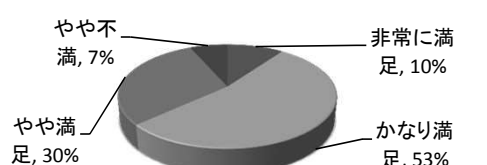
Ｅ－１．受入れた学生を総合的に見て

表11

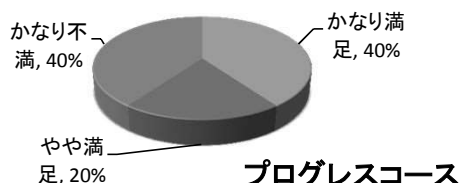
	(評価点)	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	30	25%	3	10%	0	0%	33	21%
かなり満足	5	59	48%	16	53%	2	40%	77	49%
やや満足	4	29	24%	9	30%	1	20%	39	25%
やや不満	3	2	2%	2	7%	0	0%	4	3%
かなり不満	2	2	2%	0	0%	2	40%	4	3%
非常に不満	1	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
有効回答数		122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
※平均		4.93		4.67		3.60		4.83	



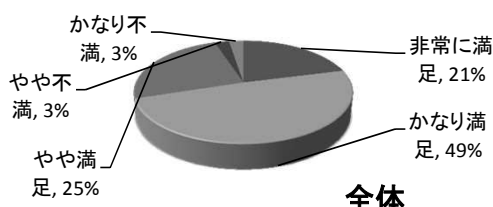
ビジネスコース



パブリックコース



プログレスコース

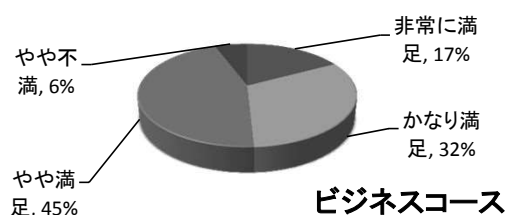


全体

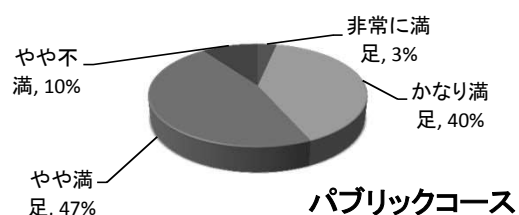
Ｅ－２．受入れ前の学習内容について（プログレスコースは講義内容）

表12

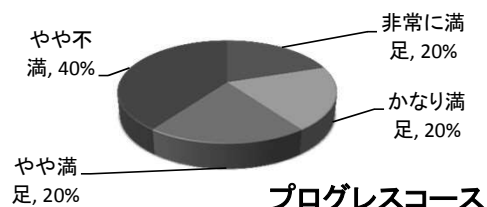
	(評価点)	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	21	17%	1	3%	1	20%	23	15%
かなり満足	5	39	32%	12	40%	1	20%	52	33%
やや満足	4	55	45%	14	47%	1	20%	70	45%
やや不満	3	7	6%	3	10%	2	40%	12	8%
かなり不満	2	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
非常に不満	1	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
有効回答数		122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
※平均		4.61		4.37		4.20		4.55	



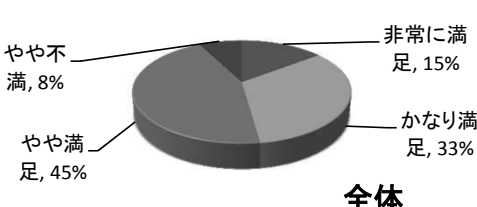
ビジネスコース



パブリックコース



プログレスコース



全体

E-3. 事務局スタッフの対応について

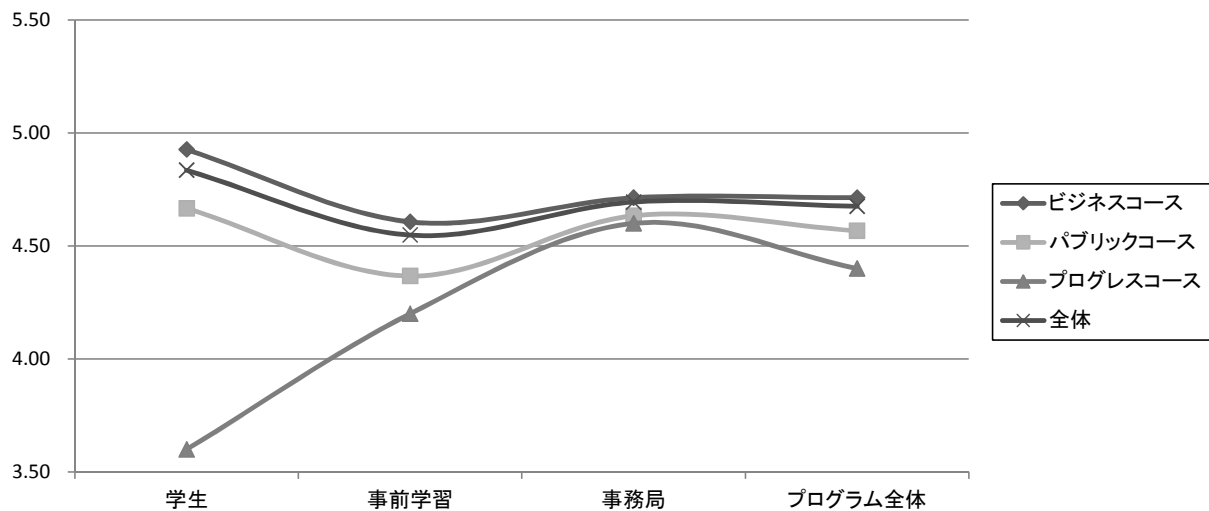
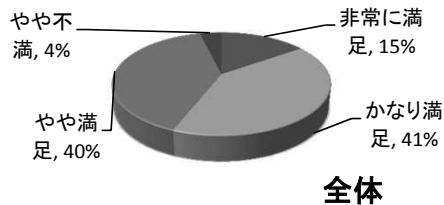
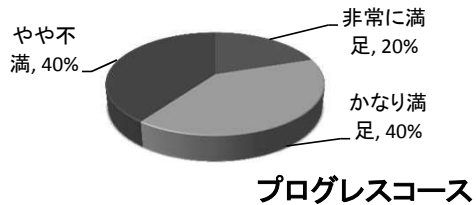
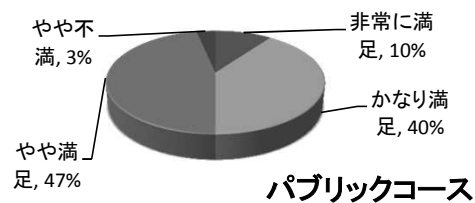
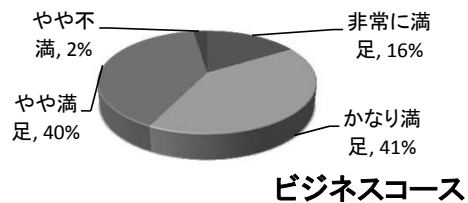
表13

(評価点)	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	19	16%	6	20	20%	26	17%
かなり満足	5	51	42%	8	27	20%	60	38%
やや満足	4	50	41%	15	50	60%	68	43%
やや不満	3	2	2%	1	3	0%	3	2%
かなり不満	2	0	0%	0	0	0%	0	0%
非常に不満	1	0	0%	0	0	0%	0	0%
有効回答数	122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
※平均	4.71		4.63		4.60		4.69	

E-4. インターンシップ・プログラム全体

表14

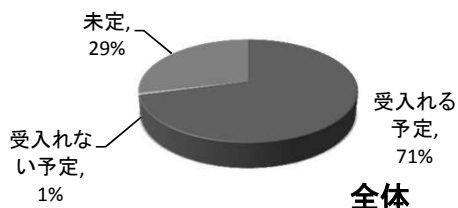
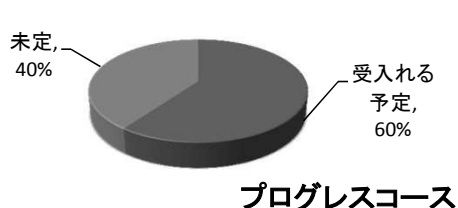
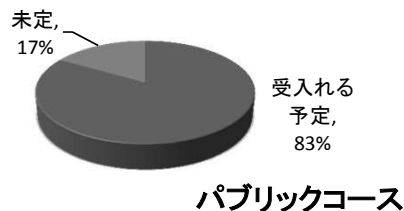
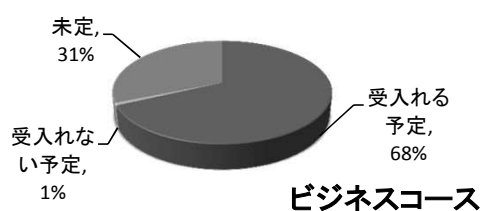
(評価点)	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	6	20	16%	3	10	20%	24	15%
かなり満足	5	50	41%	12	40	40%	64	41%
やや満足	4	49	40%	14	47	0	63	40%
やや不満	3	3	2%	1	3	40%	6	4%
かなり不満	2	0	0%	0	0	0%	0	0%
非常に不満	1	0	0%	0	0	0%	0	0%
有効回答数	122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
※平均	4.71		4.57		4.40		4.68	



F-1. 次年度のインターンシップ受入れについて

表15

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れる予定	83	68%	25	83%	3	60%	111	71%
受入れない予定	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%
未定	38	31%	5	17%	2	40%	45	29%
有効回答数	122	100%	30	100%	5	100%	157	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	122		30		5		157	



◎受入れ予定と、E-4のプログラム全体に対する満足度平均のクロス集計

表16

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
受入れる予定	4.78	4.64	5.33	4.77
受入れない予定	4.00	-	-	4.00
未定	4.58	4.20	3.00	4.47
全体	4.71	4.57	4.40	4.68

F-2-1. 留学生について

表17

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れは可能	15	18%	3	12%	0	0%	18	16%
受入れは不可能	37	45%	7	28%	0	0%	44	40%
条件付で受入れは可能	31	37%	15	60%	3	100%	49	44%
有効回答数	83	100%	25	100%	3	100%	111	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	83		25		3		111	

※F-1で「受入れる予定」と回答した受入れ先のみ回答

F-2-2. 障がいを持つ学生について

表18

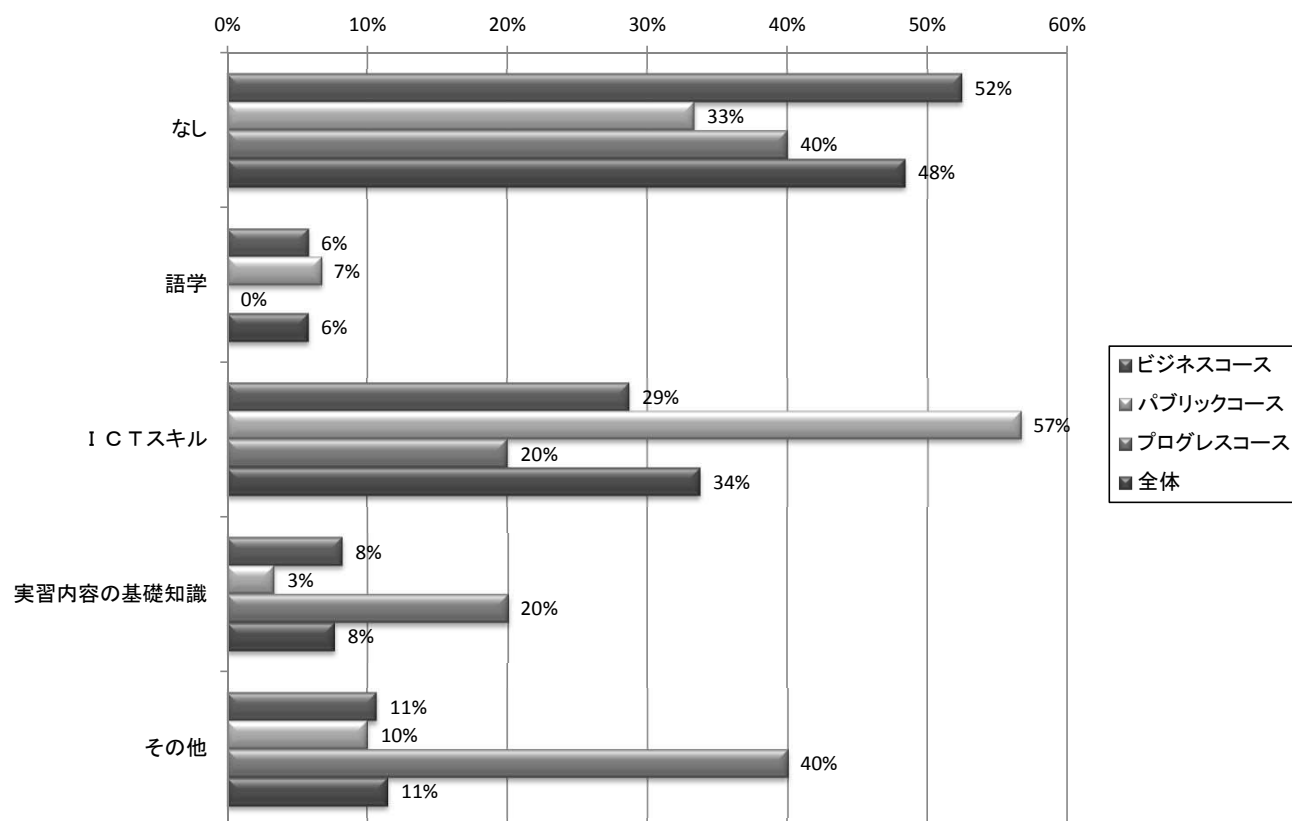
	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れは可能	4	5%	3	12%	0	0%	7	6%
受入れは不可能	50	60%	11	44%	1	33%	62	56%
条件付で受入れは可能	29	35%	11	44%	2	67%	42	38%
有効回答数	83	100%	25	100%	3	100%	111	100%
無回答	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
総計	83		25		3		111	

※F-1で「受入れる予定」と回答した受入れ先のみ回答

F-3. 受入れに関して学生に求める専門スキルについて（複数回答）

表19

	ビジネス 回答数	パブリック 回答数	プログレス 回答数	全体 回答数
なし	64	10	2	76
語学	7	2	0	9
ICTスキル	35	17	1	53
実習内容に関する専門的な基礎知識	10	1	1	12
その他	13	3	2	18



「その他」自由記述より

- ・社会人としての基本的なマナー【飲食・宿泊】
- ・専門的なスキルよりも基本的な言葉遣いや仕事への取り組み方【飲食・宿泊】
- ・一般的なコミュニケーションがとれること。ものづくりが好きなこと。【製造】
- ・元気・自発性【出版・印刷・広告】
- ・明確な目的意識と意欲【教育】

H-1. 本財団のインターンシップ以外の受入れについて

表20

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
受入れている	86	71%	23	79%	4	80%	113	73%
受入れていない	35	29%	6	21%	1	20%	42	27%
有効回答数	121	100%	29	100%	5	100%	155	100%
無回答	1	(1%)	1	(3%)	0	(0%)	2	(1%)
総計	122		30		5		157	

H-2. 本財団のインターンシップ以外の受入れ方法について（複数回答）

表21

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
公募	12	14%	2	9%	0	0%	14	12%
各大学・短大を通じて	71	83%	20	87%	4	100%	95	84%
その他	11	13%	5	22%	0	0%	16	14%

※H-1で「受入れている」と回答した受入れ先のみ回答

Ⅲ. 受入れ先アンケート自由記述(抜粋)

自由記述については、基本的に原文をそのまま掲載した。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名等特定される個所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

プログラム全体

○大学連携のスケールメリットをいかした事業として成果がありますので、今後も継続していただきたい。【教育】

事前・事後学習

○事前のマナー研修などしっかりして頂いているので、安心して受け入れます。【卸売・小売・販売】

○事前学習も行き届いており、学びの意欲が高い学生であった。【医療・福祉】

メリット・成果

○学生と接点を持つ事で、今の学生が仕事に対してどのように考えているのかを知る事ができ、今後の採用活動に活かしたいと思います。【飲食・宿泊】

○学生を受け入れる事で、弊社としても見直すべき所が見えたり、学生自身が感じられた率直な意見を聞く事ができる為。【サービス業・その他】

○学生の強い学習意欲があり、どう教えたら伝わるか、スタッフ全員指示する立場となり、考えさせられる部分があった。【卸売・小売・販売】

○若い力が少ない社内で、直にその働きぶりや、発表の場を見ることができて社員一同、「あの子は良かった」と今でも感動の言葉を発しています。【製造】

○学生が抱えている金融機関に対するイメージと実際の現場ではギャップがあります。金融機関に対するミスマッチが少なからず解消できたと考えております。これは私どもにも成果であります。【金融・保険・証券】

○意欲的な面は社員にとっても良い刺激になっていた様に感じた。【出版・印刷・広告】

○業界の理解浸透とイメージアップにはつながった。成果については、成果と手間のバランスを考えるとどちらともいえない部分があるが、指導する側の指導スキルアップや職場内の活性化にはつながった。【医療・福祉】

○外部や学生の視点から見て、業務のやり方がどのように映っているかを聞く事ができ、参考になった。【教育】

実習生に対する評価

○研修途中モチベーション低下を心配しておりましたが、最終日に近づくにつれ、自然に笑顔も出ていました。【飲食・宿泊】

- 自分に向いている仕事、自分がやってみたいことの発見につながったのではないかと思います。【サービス業・その他】
- 当社商品に対する評価など素直な意見をいただいた。また、成果発表において、当社の教育商材の提言などもいただいた。【卸売・小売・販売】
- 今年の学生に接し、学生諸氏を見直しました。全ての大学の学生がこの様であってくれる事を願っています。【製造】
- この業界に関わることで、今まで気付かなかった新しい自分を発見したという感想が多かった。【医療・福祉】

その他・ご要望・感想など

- 学生への就業体験を提供するだけのプログラムとなっており、我々が学生から何かを吸収したり、学べることが見つけられない。【卸売・小売・販売】
- 長期(1 カ月)のインターンシップなので体調管理が出来るよう希望します。【卸売・小売・販売】
- 学生が企業評価をすればいいと考える。次の学生がそれを何からの形で見ることができ、無名の会社、知識のない部門への関心につながられればいいと考える。【製造】
- 引き続き、学生を仕事の場で鍛える教育プログラムとしての「質」を高めつつ、学生が実習に行ける機会の拡大をお願いいたします。【教育】

第3章 受講生アンケート

I-1. 受講生アンケート用紙(ビジネスコース・パブリックコース)

インターンシップに関するアンケート

2012年9月
公益財団法人 大学コンソーシアム京都

◆アンケートご協力をお願い

このアンケートは、インターンシップ・プログラムに参加した皆さんのプログラムに対する感想や就職に関する考え方がどのようなに変化したかをお聞きし、今後のインターンシップ・プログラムに役立てようとするものです。実習に参加する前はどう答えたかは気にせず、素直にお答えください。
なお、このアンケートは集計して上記目的のために利用する以外のお目当てにはありません。
また、個人が特定されるような形で内容を公表すること、回答内容が成績・評価に影響することはありません。

F 1. 受講コース

1. ビジネス 2. パブリック

F 2. 性別

男 ・ 女

F 3. 今回のインターンシップ・プログラムに関する所属大学・学部での単位認定と受講登録について

① 単位認定

1. 単位認定あり 2. 単位認定なし 3. 不明

② 受講クラス

①で『1.』と答えた方にお伺いします

1. 卒業要件単位として認定されるので、受講登録した。
2. 卒業要件単位として認定されるが、受講登録しなかった。
(理由:)
3. 卒業要件単位として認定されないが、受講登録した。
4. 卒業要件単位として認定されないで、受講登録しなかった。

Q 1. 実習の実働日数

合計 日間

Q 2. 実習期間の長さについて

1. 長すぎる 2. やや長い 3. 適当 4. やや短い 5. 短すぎる

Q 3. 実習形態について

1. 単一部署で単一業務に携わった 2. 単一部署で複数業務に携わった
3. 複数部署で単一業務に携わった 4. 複数部署で複数業務に携わった
5. 見学が中心だった 6. 説明・講義が中心
7. その他 ()

Q 4. 支給された各種手当の総額 (ない場合は「0」)

円

Q 5. 出願時の志望先と実際の実習先の満足度 (希望どおりなら「100」)

約 %

Q 6. 実習先への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい
3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q 7. 実習先と同業種への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい
3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q 8. 就職に対する意識の変化について

1. 就職したいと強く思うようになった
2. 就職したいと少し思うようになった
3. 就職に対する気持ちにそれほど変化はなかった
4. 就職したくないと少し思うようになった
5. 就職したくないと強く思うようになった

Q 9. 6月30日のスキルアップトレーニングについて教えてください

①受講クラス

1. コミュニケーション・スキルアップトレーニング
2. プレゼンテーション・スキルアップトレーニング
3. ケース別職場でのマナー実践編
4. ロジカル・シンキングトレーニング
5. モチベーション・スキルアップトレーニング

②満足度

1. 大変満足 2. ほぼ満足
3. 少し不満 4. 非常に不満

Q 10. インターンシップ実習で何を習得しましたか?

	そう思う	1	2	3	4	5
働くということを学べた		1	2	3	4	5
実習先について知ることができた		1	2	3	4	5
自分のスキルや専門知識が向上した		1	2	3	4	5
自分の力試しが出来た		1	2	3	4	5
卒業までの目標設定ができた		1	2	3	4	5
実習先に貢献できた		1	2	3	4	5
他大学の学生・教員とのネットワークができた		1	2	3	4	5

Q 11. 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことはなんですか?

	不安だ	1	2	3	4	5
ビジネスマナーや話し方など		1	2	3	4	5
職場の人との人間関係など		1	2	3	4	5
スキルや専門知識など		1	2	3	4	5
体調管理など		1	2	3	4	5

裏面も回答してください

Q12. インターンシップに関する以下の事項について、どの程度満足していますか？

	満 足					不 満				
事前学習・事後学習	1	2	3	4	5	6				
業界別のクラス分け	1	2	3	4	5	6				
実習日誌による記録	1	2	3	4	5	6				
コミュニケーショントレーニング	1	2	3	4	5	6				
インターンシップに関するPR	1	2	3	4	5	6				
担当コーディネーター（教員）の指導	1	2	3	4	5	6				
事務局的対応	1	2	3	4	5	6				
受入れ先での実習内容	1	2	3	4	5	6				
インターンシップ・プログラム全体	1	2	3	4	5	6				

Q13. インターンシップやインターンシップ・プログラムに関して気付いたことや意見・感想があれば自由に記入してください。

Q14. 次に示された項目は、あなたの自身の現在の考えや状況にどの程度あてはまりますか、一見似ている項目も意味内容が異なります。

1項目ずつ考えてみてください。

	1	2	3	4	5	6
1. 自分の自信につながる経験がある。	1	2	3	4	5	6
2. 自分に欠けている部分をきちんと把握している。	1	2	3	4	5	6
3. 自分の興味・関心について人に説明できる。	1	2	3	4	5	6
4. 責任を果たすことの大切さを心得ている。	1	2	3	4	5	6
5. やるべきことを実際、行動に移せる。	1	2	3	4	5	6
6. やるべきことを最後までやり遂げることができる。	1	2	3	4	5	6
7. 異なった状況や環境にうまく適応できる方だ。	1	2	3	4	5	6
8. いろいろな困難に耐え得る精神力がある。	1	2	3	4	5	6
9. 自分の進むべき道を十分に認識している。	1	2	3	4	5	6
10. 自分には何が向いているのかを知っている。	1	2	3	4	5	6
11. 自分は幅広く活動している方だ。	1	2	3	4	5	6
12. 今、規則正しい生活を送っている。	1	2	3	4	5	6
13. 現在の自分に不安を感じている。	1	2	3	4	5	6
14. 現在の生活に満足している。	1	2	3	4	5	6
15. 広い視野で物事を見るようにしている。	1	2	3	4	5	6
16. いろいろな角度から考えて、動くようにしている。	1	2	3	4	5	6
17. 緊張感のない日常を送っている。	1	2	3	4	5	6
18. 人それぞれの個性を認めることができる。	1	2	3	4	5	6
19. 自分の将来に有益な知り合いがいる。	1	2	3	4	5	6
20. 人間関係を通して学ぶべきを知っている。	1	2	3	4	5	6
21. 職場の人間関係の難しさはある程度知っている。	1	2	3	4	5	6
22. 上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。	1	2	3	4	5	6
23. 仕事上の優れたリーダーシップのあり方が分かる。	1	2	3	4	5	6
24. 職業人としての礼儀、作法を心得ている。	1	2	3	4	5	6
25. 職場の人間関係がどういふものなのかをきまえている。	1	2	3	4	5	6
26. 将来の進路に関して迷いがある。	1	2	3	4	5	6
27. 働くことがどういうことか知っている。	1	2	3	4	5	6
28. 組織がどのように運営されているのかある程度わかる。	1	2	3	4	5	6
29. 社会の裏側にある汚い面をある程度知っている。	1	2	3	4	5	6
30. 社会はきれい事だけでは通用しないと心得ている。	1	2	3	4	5	6
31. 毎日休まず働くことができると思う。	1	2	3	4	5	6
32. 自分は社会にとって必要な人間だと思う。	1	2	3	4	5	6
33. 与えられた仕事を上手にこなす自信がある。	1	2	3	4	5	6
34. いくつかは新しく会社をおこなすことに参画する自信がある。	1	2	3	4	5	6
35. 社会との繋がりなしには自分には生きられないことを知っている。	1	2	3	4	5	6
36. 取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。	1	2	3	4	5	6
37. 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。	1	2	3	4	5	6
38. お金より自由な時間をもっと大切だと思う。	1	2	3	4	5	6
39. 人から言われる前に進んで仕事ができる方だ。	1	2	3	4	5	6
40. 学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。	1	2	3	4	5	6
41. 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。	1	2	3	4	5	6
42. 定職に就かずフリーターとしてやって行くことはいやだ。	1	2	3	4	5	6
43. 職場に男女差別の問題があることを認識している。	1	2	3	4	5	6
44. 今の社会では、女性働き続けるいくことは大変である。	1	2	3	4	5	6
45. 成果の有無に関わらず努力している様子を評価されたことがある。	1	2	3	4	5	6

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

I-2. 受講生アンケート用紙(プログレスコース)

インターンシップに関するアンケート

<プログレスコース>

2012年11月
公益財団法人大学コンソーシアム京都

◆アンケートご協力をお願い

このアンケートは、インターンシップ・プログラムに参加した皆さんのプログラムに対する感想や就職に関する考え方がどのように変化したかをお聞きし、今後のインターンシップ・プログラムに役立てようとするものです。実習に参加する前にどう答えたかは気にせず、率直にお答えください。
なお、このアンケートは集計して上記目的のために利用する以外の目的で利用することはありません。また、個人が特定されるような形で内容を公表すること、回答内容が成績・評価に影響することはありません。

F1. 性別

男・女

F2. 今回のインターンシップ・プログラムに関する所属大学・学部での単位認定と受講登録について
①単位認定

1. 単位認定あり 2. 単位認定なし 3. 不明
②受講クラス (①で『1.』と答えた方にお伺いします)

1. 卒業要件単位として認定されるので、受講登録した。
2. 卒業要件単位として認定されるが、受講登録しなかった。
(理由:)
3. 卒業要件単位として認定されないが、受講登録した。
4. 卒業要件単位として認定されないで、受講登録しなかった。

Q1. 実習の実日数

※授業日数(9日)と、受入れ先での実習やミーティングの合計日数を記入してください。

合計 日数

Q2. 実習期間の長さについて

1. 長すぎる 2. やや長い 3. 適当 4. やや短い 5. 短すぎる

Q3. 支給された各種手当での総額(ない場合は「0」)

円

Q4. 出願時の志望先と実務の実習先の満足度(希望どおりなら「100」)

約 %

Q5. 実習先への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい
3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q6. 実習先と同業種への就職希望について

1. 就職したい 2. やや就職したい
3. あまり就職したくない 4. 就職したくない

Q7. 就職に対する意識の変化について

1. 就職したいと強く思うようになった
2. 就職したいと少し思うようになった
3. 就職に対する気持ちにそれほど変化はなかった
4. 就職したくないと少し思うようになった
5. 就職したくないと強く思うようになった

Q8. インターンシップ実習で何をられましたか?

働くということを実感できた..... 1 2 3 4 5
実習先について知ることができた..... 1 2 3 4 5
自分のスキルや専門知識が向上した..... 1 2 3 4 5
自分の力試しが出来た..... 1 2 3 4 5
卒業までの目標設定が出来た..... 1 2 3 4 5
実習先に貢献できた..... 1 2 3 4 5
他大学の学生・教員とのネットワークが出来た..... 1 2 3 4 5

Q9. 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思ふことはなんですか?

ビジネスマナーや話し方など..... 1 2 3 4 5
職場の人との人間関係など..... 1 2 3 4 5
スキルや専門知識など..... 1 2 3 4 5
体調管理など..... 1 2 3 4 5

裏面も回答してください

Q10. インタビュースキップに関する以下の事項について、どの程度満足していますか？

※該当しない説明については、未記入で結構です。

	満足					不満足
HP・掲示などの告知方法について・・・	1	2	3	4	5	6
講義の場所（キャンパスプラザ）・・・	1	2	3	4	5	6
講義の開催時間（18：00～21：10）・・・	1	2	3	4	5	6
オリエンテーション・・・	1	2	3	4	5	6
※修了生によるプロジェクトの経験談等の発表・・・	1	2	3	4	5	6
※ワークシートを用いたプロジェクト形成・・・	1	2	3	4	5	6
コミュニケーショントレーニング・・・	1	2	3	4	5	6
プレゼンテーショントレーニング・・・	1	2	3	4	5	6
最終プレゼンテーション・・・	1	2	3	4	5	6
実習日誌による記録・・・	1	2	3	4	5	6
担当教員の関わり方・意見交換等・・・	1	2	3	4	5	6
事務局の対応・・・	1	2	3	4	5	6
受入れ団体でのプロジェクト内容・・・	1	2	3	4	5	6
インタビュースキップ・プログラム全体・・・	1	2	3	4	5	6

Q11. インタビュースキップ・プログラムについて全体を通して気付いたことや意見・感想があれば自由に記入してください。

Q12. 次に示された項目は、あなたの自身の現在の考えや状況にどの程度あてはまりますか。一見似ている項目も意味内容が異なります。

1項目ずつ考えてみてください。

	1	2	3	4	5	6
全く当てはまらない	1	2	3	4	5	6
かなり当てはまる	1	2	3	4	5	6
ほとんど当てはまる	1	2	3	4	5	6
完全に当てはまる	1	2	3	4	5	6
1. 自分の自信につながる経験がある。……………	1	2	3	4	5	6
2. 自分に欠けている部分をきちんと把握している。……………	1	2	3	4	5	6
3. 自分の興味・関心について人に説明できる。……………	1	2	3	4	5	6
4. 責任を果たすことの大切さを心得ている。……………	1	2	3	4	5	6
5. やるべきことを実際、行動に移せる。……………	1	2	3	4	5	6
6. やるべきことを最後までやり遂げることができる。……………	1	2	3	4	5	6
7. 異なった状況や環境にうまく適応できる。……………	1	2	3	4	5	6
8. いろいろな困難に耐え得る精神力がある。……………	1	2	3	4	5	6
9. 自分の進むべき道を十分に認識している。……………	1	2	3	4	5	6
10. 自分には何が向いているのかを知っている。……………	1	2	3	4	5	6
11. 自分は幅広く活動している方だ。……………	1	2	3	4	5	6
12. 今、規則正しい生活を送っている。……………	1	2	3	4	5	6
13. 現在の自分に不安を感じている。……………	1	2	3	4	5	6
14. 現在の生活に満足している。……………	1	2	3	4	5	6
15. 広い視野で物事を見るようにしている。……………	1	2	3	4	5	6
16. いろいろな角度から考えて、動くようにしている。……………	1	2	3	4	5	6
17. 緊急のない日常生活を送っている。……………	1	2	3	4	5	6
18. 入それぞれの個性を認めることができる。……………	1	2	3	4	5	6
19. 自分の将来に有益な知り合いがいる。……………	1	2	3	4	5	6
20. 人間関係を通して学ぶべきを知っている。……………	1	2	3	4	5	6
21. 職場の人間関係の難しさを知る程度知っている。……………	1	2	3	4	5	6
22. 上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。……………	1	2	3	4	5	6
23. 仕事上の優れたリーダーシップのあり方がわかる。……………	1	2	3	4	5	6
24. 職業人としての礼儀、作法を心得ている。……………	1	2	3	4	5	6
25. 職場の人間関係がどのようなものかわかっている。……………	1	2	3	4	5	6
26. 将来の進路に関して迷いがある。……………	1	2	3	4	5	6
27. 働くことがどういうことか知っている。……………	1	2	3	4	5	6
28. 組織がどのように運営されているのかある程度わかる。……………	1	2	3	4	5	6
29. 社会の裏側にある汚い面がある程度知っている。……………	1	2	3	4	5	6
30. 社会はきれい事だけでは通用しないと心得ている。……………	1	2	3	4	5	6
31. 毎日休まず働くことができると思う。……………	1	2	3	4	5	6
32. 自分は社会にとって必要な人間だと思う。……………	1	2	3	4	5	6
33. 与えられた仕事を上手くこなす自信がある。……………	1	2	3	4	5	6
34. いつかはお金を稼ぐことに参画する自信がある。……………	1	2	3	4	5	6
35. 社会との繋がりがなしには自分は生きていけないことを知っている。……………	1	2	3	4	5	6
36. 取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。……………	1	2	3	4	5	6
37. 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。……………	1	2	3	4	5	6
38. お金より自由な時間をもっと大切だと思う。……………	1	2	3	4	5	6
39. 人から言われる前に進んで仕事ができる方だ。……………	1	2	3	4	5	6
40. 学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。……………	1	2	3	4	5	6
41. 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。……………	1	2	3	4	5	6
42. 定職に就かずフリーターとしてやってみようとはしている。……………	1	2	3	4	5	6
43. 職場に男女差別の問題があることを認識している。……………	1	2	3	4	5	6
44. 今の社会では、女性働き続けにくいことは大抵である。……………	1	2	3	4	5	6
45. 成金の有無に関わらず努力している様子を評価されたことがある。……………	1	2	3	4	5	6

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

Ⅱ．受講生アンケート結果

2012年度受講生に対して、プログラム最終日にアンケートを実施した。以下は、その内容を集計したものである。

前述の受入れ先アンケートと同様、その結果や個別の意見等については、2013年度以降のプログラムの策定やシラバスの改善などに役立てたい。

＜アンケート実施日＞

ビジネスコース・パブリックコース／2012年9月29日(土)：事後学習時

プログレスコース／2012年11月17日(土)：成果報告会当日

＜有効回答数＞

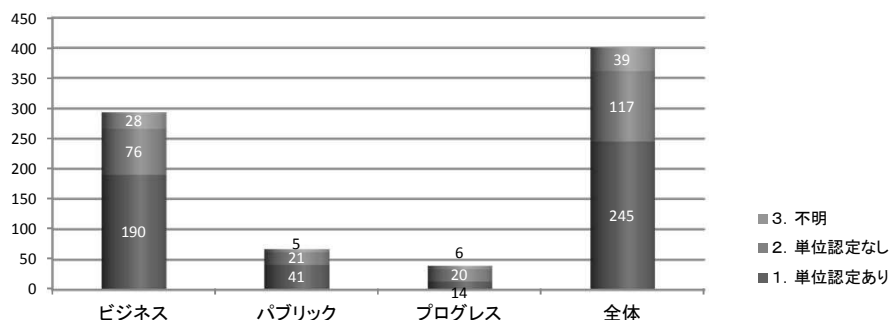
	受講生数	回答数	回答率
ビジネスコース	304	295	97%
パブリックコース	67	67	100%
プログレスコース	51	40	78%
合計	422	402	95%

※なお、以下のアンケート結果の数値は、小数点第1位を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

※以下、アンケートの無回答数は集計時に割合として含んでいない。

＜所属大学における単位認定＞

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
1. 単位認定あり	190	41	14	245
2. 単位認定なし	76	21	20	117
3. 不明	28	5	6	39
有効回答数	294	67	40	401
無回答	1	0	0	1
総計	295	67	40	402

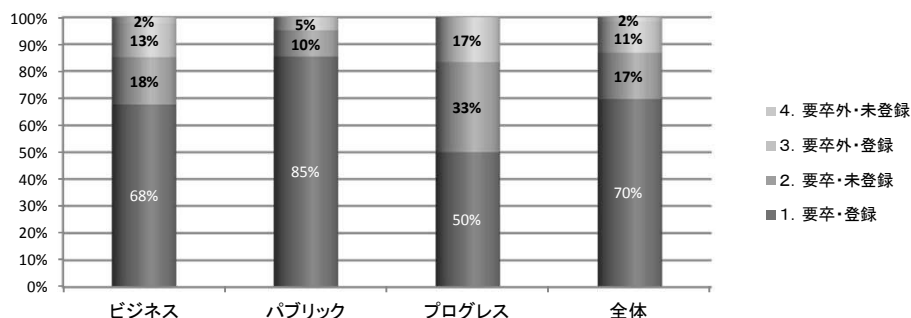


＜受講登録＞

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
1. 要卒・登録	123	35	6	164
2. 要卒・未登録	32	4	4	40
3. 要卒外・登録	23	2	2	27
4. 要卒外・未登録	4	0	0	4
有効回答数	182	41	12	235
無回答	8	0	2	10
総計	190	41	14	245

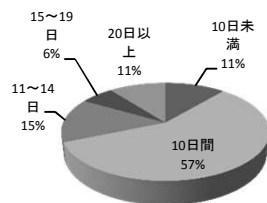
※所属大学における「単位認定あり」と回答した受講生のみ回答

1. 要卒・登録……卒業要件単位として認定されるので、受講登録した。
2. 要卒・未登録……卒業要件単位として認定されるが、受講登録しなかった。
3. 要卒外・登録……卒業要件単位として認定されないが、受講登録した。
4. 要卒外・未登録……卒業要件単位として認定されないで、受講登録しなかった。

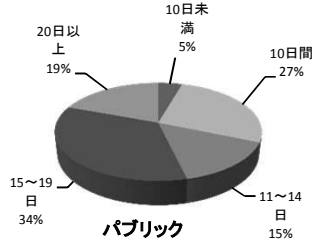


1. 実習の実働日数

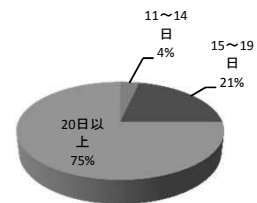
	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
10日未満	33	3	0	36
10日間	169	18	0	187
11～14日	43	10	1	54
15～19日	18	23	6	47
20日以上	31	13	21	65
有効回答数	294	67	28	389
無回答	1	0	12	13
総計	295	67	40	402



ビジネス



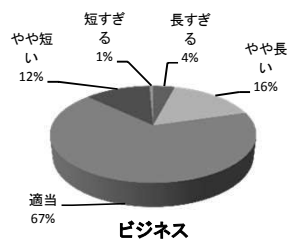
パブリック



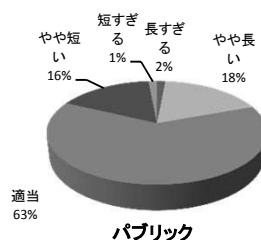
プログレス

2. 実習期間の長さについて

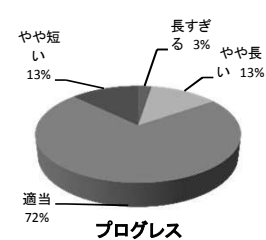
	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
長すぎる	12	1	1	14
やや長い	48	12	5	65
適当	195	42	28	265
やや短い	36	11	5	52
短すぎる	2	1	0	3
有効回答数	293	67	39	399
無回答	2	0	1	3
総計	295	67	40	402



ビジネス



パブリック

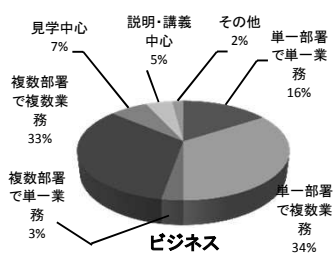


プログレス

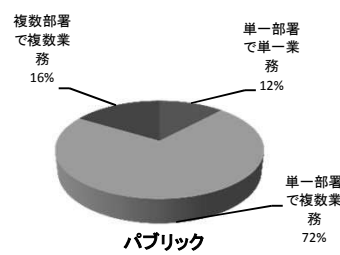
3. 実習形態について

※プログレスコースは該当しない

	ビジネス	パブリック	計
単一部署で単一業務	46	8	54
単一部署で複数業務	99	48	147
複数部署で単一業務	8	0	8
複数部署で複数業務	97	11	108
見学中心	20	0	20
説明・講義中心	14	0	14
その他	6	0	6
有効回答数	290	67	357
無回答	5	0	5
総計	295	67	362



ビジネス



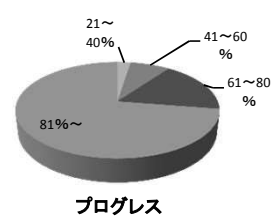
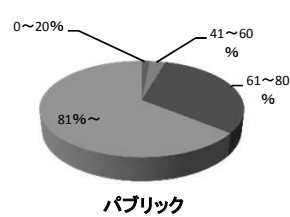
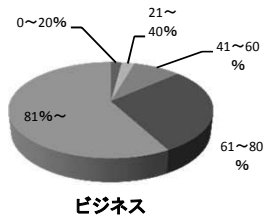
パブリック

4. 支給された各種手当の総額について

	ビジネス		パブリック		プログレス		全体	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	261	88%	65	97%	29	74%	355	89%
1円～4,999円	12	4%	2	3%	0	0%	14	3%
5,000円～9,999円	11	4%	0	0%	9	23%	20	5%
10,000円～19,999円	6	2%	0	0%	1	3%	7	2%
20,000円以上	5	2%	0	0%	0	0%	5	1%
総計	295		67		39		401	

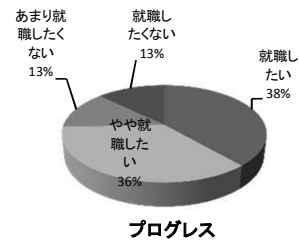
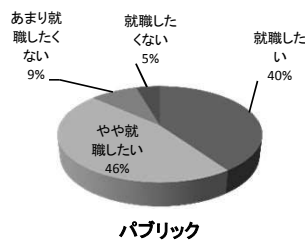
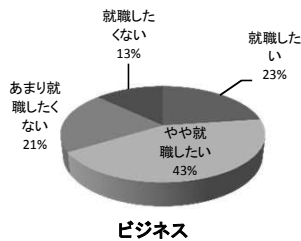
5. 出願時の志望先と実際の実習先の満足度

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
0～20%	6	1	0	7
21～40%	7	0	1	8
41～60%	26	2	3	31
61～80%	83	21	7	111
81%～	168	43	29	240
有効回答数	290	67	40	397
無回答	5	0	0	5
総計	295	67	40	402



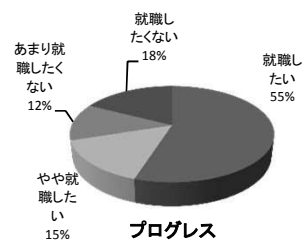
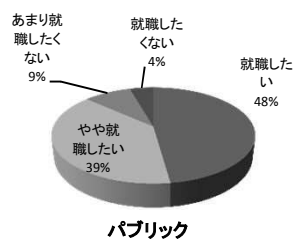
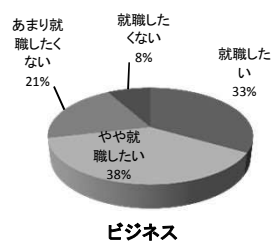
6. 受入れ先へ就職したいと思いますか

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
就職したい	67	27	15	109
やや就職したい	127	31	14	172
あまり就職したくない	61	6	5	72
就職したくない	38	3	5	46
有効回答数	293	67	39	399
無回答	2	0	1	3
総計	295	67	40	402



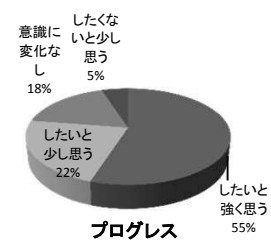
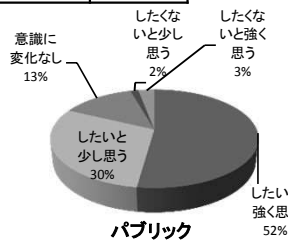
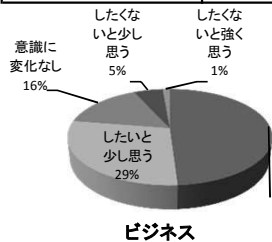
7. 受入れ先と同業種へ就職したいと思いますか

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
就職したい	98	32	22	152
やや就職したい	112	26	6	144
あまり就職したくない	60	6	5	71
就職したくない	24	3	7	34
有効回答数	294	67	40	401
無回答	1	0	0	1
総計	295	67	40	402



8. 就職に対する意識の変化について

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
就職したいと強く思うようになった	144	35	22	201
就職したいと少し思うようになった	84	20	9	113
就職に対する意識に変化なし	46	9	7	62
就職したくないと少し思うようになった	16	1	2	19
就職したくないと強く思うようになった	4	2	0	6
有効回答数	294	67	40	401
無回答	1	0	0	1
総計	295	67	40	402

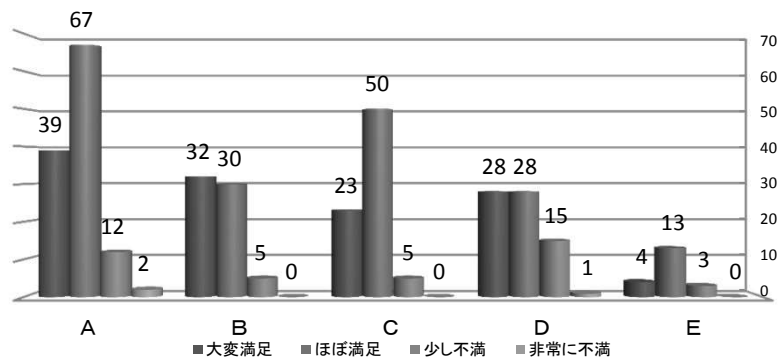


9. スキルアップトレーニングの内容と満足度について

	A	B	C	D	E	全体
大変満足	39	32	23	28	4	126
ほぼ満足	67	30	50	28	13	188
少し不満	12	5	5	15	3	40
非常に不満	2	0	0	1	0	3
有効回答数	120	67	78	72	20	357
無回答	1	0	0	0	0	1
総計	121	67	78	72	20	358

※ビジネスコース・パブリックコースの回答者合計362名のうち、スキルアップトレーニングの内容について無回答であった4名は集計に含んでいない。

※プログレスコースは、任意参加であったため集計に含んでいない。

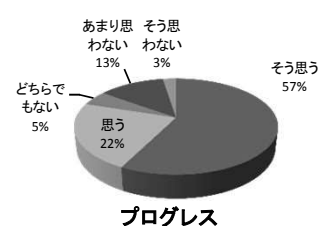
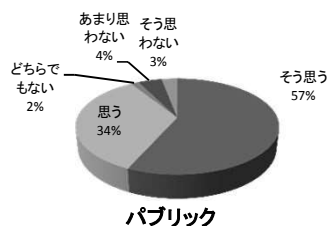
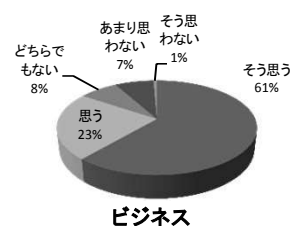


- A. コミュニケーションスキルアップトレーニング
- B. プレゼンテーションスキルアップトレーニング
- C. ケース別職場でのマナー実践編
- D. ロジカル・シンキングトレーニング
- E. モチベーション・キープトレーニング

10. 実習で何を得られましたか

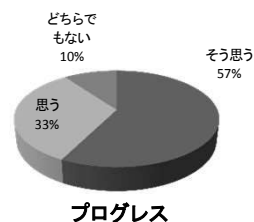
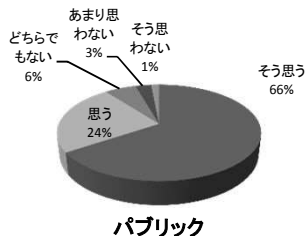
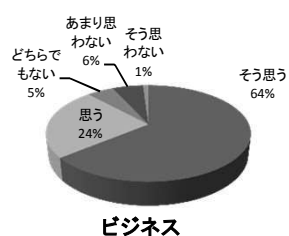
1) 働くということを実感できた

	ビジネス	パブリック	プログレス	全体
そう思う	181	38	23	242
思う	68	23	9	100
どちらでもない	22	1	2	25
あまり思わない	22	3	5	30
そう思わない	2	2	1	5
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



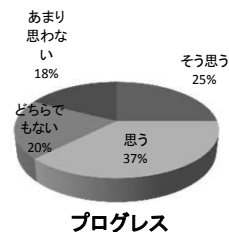
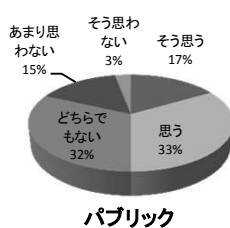
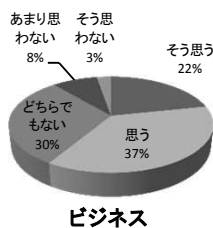
2) 受入れ先について知ることができた

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
そう思う	189	44	23	256
思う	71	16	13	100
どちらでもない	15	4	4	23
あまり思わない	17	2	0	19
そう思わない	3	1	0	4
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



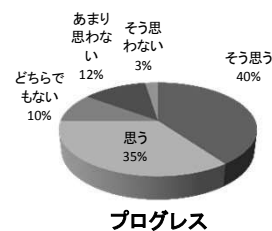
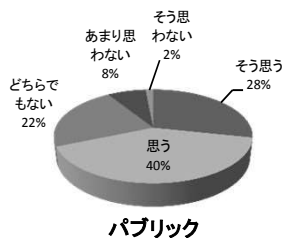
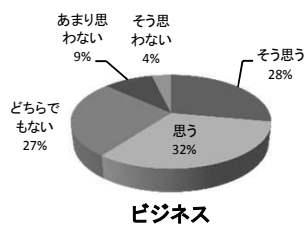
3) 自分のスキルや専門知識が向上した

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
そう思う	64	11	10	85
思う	109	22	15	146
どちらでもない	89	21	8	118
あまり思わない	25	10	7	42
そう思わない	8	2	0	10
有効回答数	295	66	40	401
無回答	0	1	0	1
総計	295	67	40	402



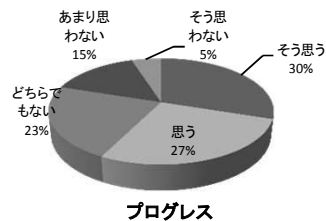
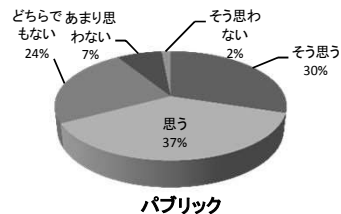
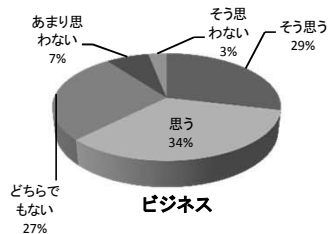
4) 自分の力試しができた

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
そう思う	82	19	16	117
思う	95	27	14	136
どちらでもない	78	15	4	97
あまり思わない	28	5	5	38
そう思わない	11	1	1	13
有効回答数	294	67	40	401
無回答	1	0	0	1
総計	295	67	40	402



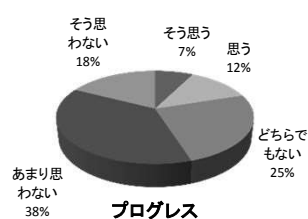
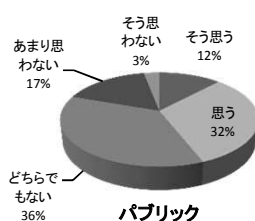
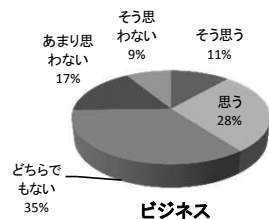
5) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
そう思う	84	20	12	116
思う	99	25	11	135
どちらでもない	80	16	9	105
あまり思わない	21	5	6	32
そう思わない	9	1	2	12
有効回答数	293	67	40	400
無回答	2	0	0	2
総計	295	67	40	402



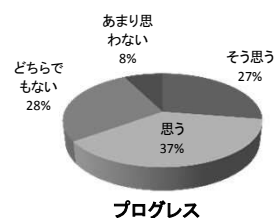
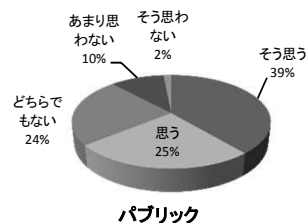
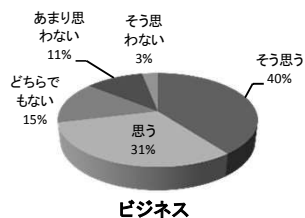
6) 受入れ先に貢献できた

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
そう思う	34	8	3	45
思う	83	21	5	109
どちらでもない	103	24	10	137
あまり思わない	49	11	15	75
そう思わない	26	2	7	35
有効回答数	295	66	40	401
無回答	0	1	0	1
総計	295	67	40	402



7) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

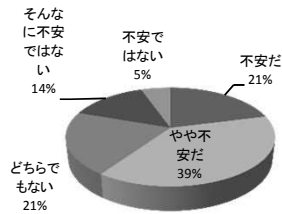
	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
そう思う	117	26	11	154
思う	93	17	15	125
どちらでもない	43	16	11	70
あまり思わない	33	7	3	43
そう思わない	9	1	0	10
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



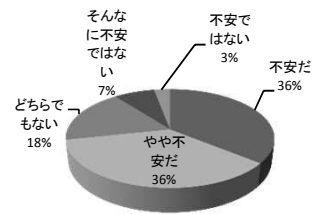
11. 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うこと

1) ビジスマナーや話し方など

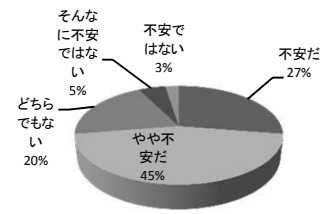
	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
不安だ	62	24	11	97
やや不安だ	114	24	18	156
どちらでもない	61	12	8	81
そんなに不安ではない	42	5	2	49
不安ではない	16	2	1	19
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



ビジネス



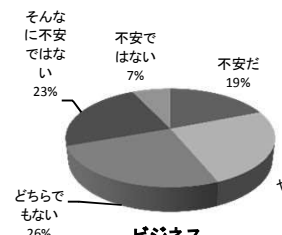
パブリック



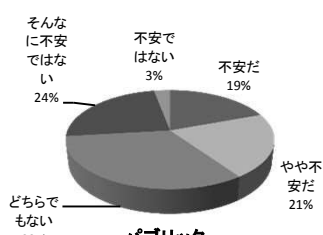
プロGRESS

2) 職場の人との人間関係など

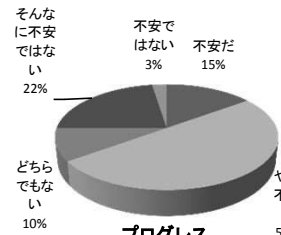
	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
不安だ	56	13	6	75
やや不安だ	73	14	20	107
どちらでもない	76	22	4	102
そんなに不安ではない	69	16	9	94
不安ではない	21	2	1	24
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



ビジネス



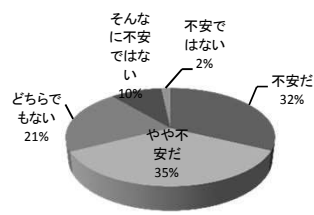
パブリック



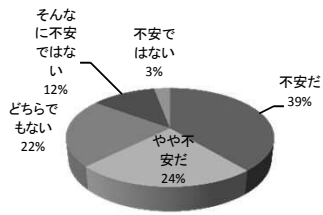
プロGRESS

3) スキルや専門知識など

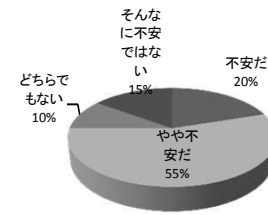
	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
不安だ	95	26	8	129
やや不安だ	104	16	22	142
どちらでもない	63	15	4	82
そんなに不安ではない	28	8	6	42
不安ではない	5	2	0	7
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



ビジネス



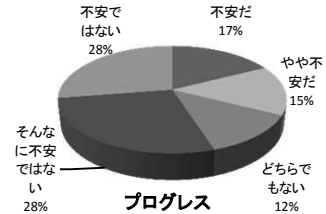
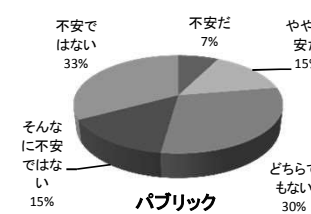
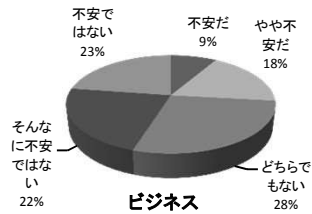
パブリック



プロGRESS

4) 体調管理など

	ビジネス	パブリック	プロGRESS	全体
不安だ	25	5	7	37
やや不安だ	54	10	6	70
どちらでもない	83	20	5	108
そんなに不安ではない	66	10	11	87
不安ではない	67	22	11	100
有効回答数	295	67	40	402
無回答	0	0	0	0
総計	295	67	40	402



12. インターンシップの各種事項に関する満足度について(抜粋)

1) 事前学習・事後学習

	ビジネス		パブリック		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	80	28%	21	32%	101	29%
かなり満足	98	34%	19	29%	117	33%
やや満足	68	24%	14	21%	82	23%
やや不満	25	9%	6	9%	31	9%
かなり不満	15	5%	5	8%	20	6%
非常に不満	6	2%	1	2%	7	2%
有効回答数	292	99%	66	99%	358	102%
無回答	3	1%	1	1%	4	1%
総計	295		67		362	

2) 実習日誌による記録

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	82	28%	21	32%	9	24%	112	28%
かなり満足	94	32%	17	26%	8	21%	119	30%
やや満足	90	31%	18	28%	8	21%	116	29%
やや不満	17	6%	7	11%	8	21%	32	8%
かなり不満	7	2%	1	2%	4	11%	12	3%
非常に不満	3	1%	1	2%	1	3%	5	1%
有効回答数	293	99%	65	97%	38	95%	396	99%
無回答	2	1%	2	3%	2	5%	6	1%
総計	295		67		40		402	

3) 事務局の対応

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	61	21%	17	26%	10	27%	88	23%
かなり満足	81	28%	16	25%	11	30%	108	28%
やや満足	105	37%	20	31%	10	27%	135	35%
やや不満	29	10%	6	9%	4	11%	39	10%
かなり不満	10	3%	4	6%	1	3%	15	4%
非常に不満	6	2%	2	3%	1	3%	9	2%
有効回答数	292	99%	65	97%	37	93%	394	98%
無回答	3	1%	2	3%	3	8%	8	2%
総計	295		67		40		402	

4) 受入れ先での実習内容(プロGRESSコースは、プロジェクト内容)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	116	40%	32	48%	15	39%	163	41%
かなり満足	80	28%	19	29%	13	34%	112	28%
やや満足	63	22%	10	15%	7	18%	80	20%
やや不満	21	7%	3	5%	3	8%	27	7%
かなり不満	9	3%	1	2%	0	0%	10	3%
非常に不満	5	2%	1	2%	0	0%	6	2%
有効回答数	294	100%	66	99%	38	95%	398	99%
無回答	1	0%	1	1%	2	5%	4	1%
総計	295		67		40		402	

5) インターンシップ・プログラム全体

	ビジネス		パブリック		プログレス		計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
非常に満足	112	38%	25	38%	13	34%	150	38%
かなり満足	100	34%	25	38%	14	37%	139	35%
やや満足	56	19%	14	21%	7	18%	77	19%
やや不満	19	6%	1	2%	4	11%	24	6%
かなり不満	6	2%	0	0%	0	0%	6	2%
非常に不満	1	0%	1	2%	0	0%	2	1%
有効回答数	294	100%	66	99%	38	95%	398	99%
無回答	1	0%	1	1%	2	5%	4	1%
総計	295		67		40		402	

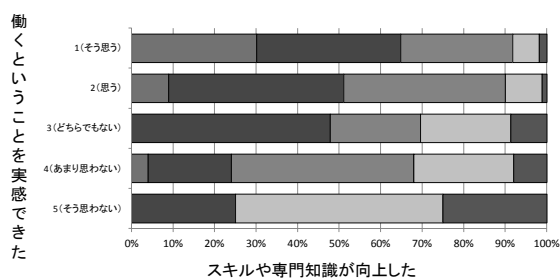
以下は、質問項目10「インターンシップ実習で何を得られましたか」というアンケート結果の中から、いくつか抽出したデータを基に行ったクロス集計の結果である。

本財団のインターンシップ・プログラムの今後の課題である、「専門性との関わりを重視した実習(もしくはプログラム)」を強化するための資料とする目的をもって集計を試みたため、短期実践型コースであるビジネスコース・パブリックコースと、長期プロジェクト型コースであるプログレスコースに分けて集計を行った。

1.スキル・専門知識の向上と働くということの実感について。

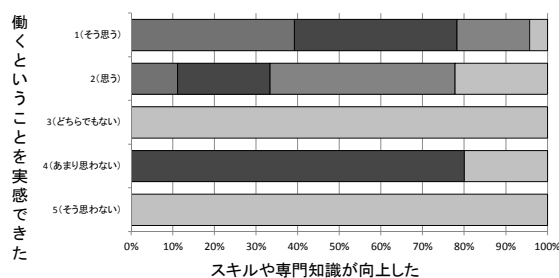
ビジネス・パブリックコース

		スキルや専門知識が向上した (1(そう思う)～5(そう思わない))						総計
		1	2	3	4	5	無回答	
働くということを実感できた	1(そう思う)	66	76	59	14	4	0	219
	2(思う)	8	38	35	8	1	1	91
	3(どちらでもない)	0	11	5	5	2	0	23
	4(あまり思わない)	1	5	11	6	2	0	25
	5(そう思わない)	0	1	0	2	1	0	4
	総計	75	131	110	35	10	1	362



プログレスコース

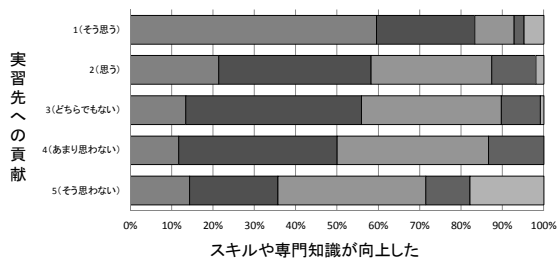
		スキルや専門知識が向上した (1(そう思う)～5(そう思わない))						総計
		1	2	3	4	5	無回答	
働くということを実感できた	1(そう思う)	9	9	4	1	0	0	23
	2(思う)	1	2	4	2	0	0	9
	3(どちらでもない)	0	0	0	2	0	0	2
	4(あまり思わない)	0	4	0	1	0	0	5
	5(そう思わない)	0	0	0	1	0	0	1
	総計	10	15	8	7	0	0	40



2.スキル・専門知識の向上と実習先への貢献について。

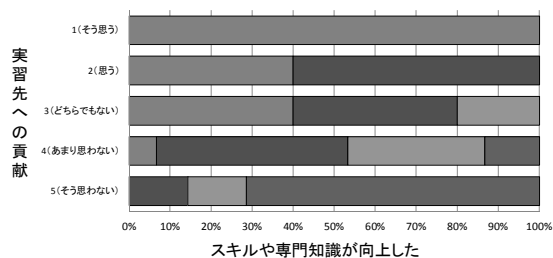
ビジネス・パブリックコース

		スキルや専門知識が向上した (1(そう思う)～5(そう思わない))						総計
		1	2	3	4	5	無回答	
実習先への貢献	1(そう思う)	25	10	4	1	2	0	42
	2(思う)	22	38	30	11	2	1	104
	3(どちらでもない)	17	54	43	12	1	0	127
	4(あまり思わない)	7	23	22	8	0	0	60
	5(そう思わない)	4	6	10	3	5	0	28
	無回答	0	0	1	0	0	0	1
	総計	75	131	110	35	10	1	362



プログレスコース

		スキルや専門知識が向上した (1(そう思う)～5(そう思わない))						総計
		1	2	3	4	5	無回答	
実習先への貢献	1(そう思う)	3	0	0	0	0	0	3
	2(思う)	2	3	0	0	0	0	5
	3(どちらでもない)	4	4	2	0	0	0	10
	4(あまり思わない)	1	7	5	2	0	0	15
	5(そう思わない)	0	1	1	5	0	0	7
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
	総計	10	15	8	7	0	0	40



Ⅲ. 受講生アンケート自由記述(抜粋)

自由記述については、基本的に原文をそのまま掲載した。ただし、誤字・脱字及び個人名・企業名等特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

ビジネスコース・パブリックコース

プログラム全体

- 社会で働いている現場に触れてみることで、働く大変さ、喜びが解って、働くことへの意識が高まった。
- 事前、事後学習等のインターンシップ・プログラムが充実していて、インターンを行うことの意義について理解することができた。この経験を今後の学生生活に活かしていきたいと考えています。
- 会社によって違うと思いますが、私たちが行った会社では、事前学習で色々と学んだ事を活かす機会がなかなかなかった。あと、スケジュールと行う内容が違ったり、時間の配分が大きくズレてしまっていることもあった。しかし全体を通して、インターンシップ・プログラムでさまざまなマナーやスキルアップトレーニングなどで学んだことは、どれも大切なことで、これから活かしていきたいと思う。
- 非常に良かったです。他大学の学生と交流できたのは、貴重な体験となりました。
- このインターンシップに行って価値観が変わりました。他大学の人々とのつながりは一生の宝物です。ありがとうございました。
- インターンシップは、学生の成長に最も寄与する教育プログラムだと感じました。
- インターンシップに参加しなくては、自分が何をしたいのか学べる事が出来なかったもので、インターンに参加していない人は是非参加してほしいと思いました。
- グループワークは楽しかった。実習は楽しくなかったけど、いい経験だった。
- 実際に現場を見てみて、働くことの大変さと重要さを改めて感じた。インターンシップに参加するのと、参加しないのは大きな違いがあると思う。必ず就職活動に生きてくると思うので、この経験を無駄にしないように、残りの学生生活も頑張っていきたい。
- インターンシップを受講する前と後で社会に対するビジョンが大きく変わった。グループディスカッションや、コーディネーターの方との話し合いで得たことを今後活かしていけるよう努力していきます。
- インターンシップは学生と社会をつなぐものだ気付いた。インターンシップ・プログラムは同じ悩みや様々な考え方や価値観等を共有することができるプログラムだと感じた。今後、様々な進路を考えている人々に出会う良い機会であると思った。
- 自分に不足している点を見つけ出せた。欠点は補うためのものであり、それが成長につながる。もし、インターンに参加していないのなら、素直に自分の欠点を認められなかつ

たかもしれない。

- 最初はインターンシップ・プログラムに行くことが憂うつに感じていましたが、やっぱり同じ辛い体験をした仲間が集って意見交換できたのは良かったと感じました。振り返ることで自分の中にもしっかり根づくものもありましたし、色んな大学の人との交流も貴重だったと思います。参加できて良かったです。ありがとうございました。
- インターンシップ・プログラムでは色んな業界の仕事や問題点を知ることができ、社会像が出来た。勇気を出して周りの人に声をかけると、他校の知り合いができて本当に良かった。インターンシップでは、アルバイトでは知り得なかった企業の裏側や社会人の考えなどを知れて、これからの自分の生活にも活かしていきたいと思った。
- このインターンシップに参加して良かった。今までにしたことのない経験ができて、自分を見つめ直す良い機会となった。
- 忙しい中で、充実したプログラムを用意して頂き、本当に感謝しています。大変貴重な経験をさせて頂き、自信をつける機会になりました。
- インターンシップに参加する前と後で、私自身にたくさんの成長をさせてくれる要因がみつかりました。本当にこのインターンシップに参加して良かったと思っています。
- 働くことに対しての意識、自分のしたい事が明確になって良かったです。
- インターンシップ実習を行うことで、今後の就職に対する考えなどがかわり、将来のことについて深く考えるようになった。
- 自分のコミュニケーション能力の低さ、そして自分に全く自信が持てないということに気付きました。何事にも積極的に挑戦していく必要性が自分にはあると考えさせられました。
- もう少し受講生同士で関係を築ける仕組みがあれば良かったです。
- インターンシップに参加できたことで、今後の自分のキャリアプランについて考える良い機会になりました。とてもよい経験になったので、参加して良かったと思います。また、私の大学では単位が認定されないの、認定されるとよいなあと思いました。
- 京都発の企業の、他県、他国のインターンもあればいいなと思います。
- とてもためになるプログラムでした。美術館・博物館の実習先が増え、意見交換ができるようになったら嬉しいです。

事前学習・事後学習

- インターンシップ・プログラムのロジカルシンキング（スキルアップトレーニング）はとても勉強になりました。個人的にもさらに勉強したいと思いました。NPOや普段自分がかかわらない企業などにもインターンシップに参加してみたいと思いました。
- コミュニケーショントレーニングは、マナーなどを詳しく知らない私たちにとって非常に大切であると思った。このトレーニングをすることで、正しい形を知ることができるので、会社に行く際に心づもりができるし、安心できた。クラスに仲間がいるというのもお

互い刺激しあってより良いものを求めていけるので、良いと思う。担当の先生がいるというのも、相談などがしやすく、いてくださって良かったです。

- 大変良い経験をさせて頂き満足しています。ただもう少し言葉遣いやコミュニケーションの勉強をしていただけるともっと良いと思います。
- さまざまな事前学習を行ってくださったので、インターンシップに行っても、不安がなくて、良かったと思う。マナー、敬語は知識として知っていても、いざ実行するとなると、また違ったので、もう少し実践の時間を事前に設けてほしかった。
- レポート提出の際など、メリハリがあり学生気分で臨んではいけないという事を感じることができた。事前学習の幅も広く、マナーなど常識も学ぶことができ、大変満足でした。
- 事前・事後学習をする事で、実習内容や課題を見つけることなどしっかり取り組んで、自分のものにできたので、すごく良かったです。またレポートを書くことによって、しっかり振り返ることができました。
- 事前・事後学習があることで、自分自身を見つめ直し、インターンシップをしっかり振り返ることができました。
- 15人程度のゼミでの授業はみんなの意見が聴きやすく、やりやすかったです。コミュニケーションのスキルアップトレーニング等もとても役に立ちました。ありがとうございました。
- クラス分けに関してですが、パブリックとビジネスは分けない方が良いと思います。社会をよく知るためにも混ぜることこそ良いと思います。
- お礼状に対する指導の徹底

実習

- イメージしていた「働くこと」と、実習をして実際に体感したこととは相違が沢山あったことに気がついた。
- 事前・事後学習をしっかりしたので、自分の変化に気付くことができました。中間指導のおかげで、実習中に実習を振り返ることができました。
- ビジネスコースで10日間の実習でしたが、もう少し長くてもよかったと思いました。
- 今回のインターンシップ・プログラム実習で、自分は仕事というものを理解することができたように感じました。私の実習先は20日間以上というところであり、とても長い期間でありました。つらい、厳しいと感じたことは何度もありましたが、自分で工夫してのりこえることができたと思いました。自分が成長する良い機会を与えて頂いて本当に感謝しております。
- 自分達でプロジェクト、研究発表をさせて頂いたことにより、自分達も実際に「働く」という意識を持てましたし、楽しかった。担当の方も面倒見がとてもよく、あの担当の方の下で働きたいと強く思った。
- 自身が進もうと思っていた進路の、いいところだけでなく、しんどいところ、大変なと

ころも垣間見ることができてよかったです。このような貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

- 今回お世話になったところは、毎日の業務が比較的単調で、慣れてくると物足りなさを覚えた。自分から積極的に仕事を見つける事は大切だと思う。
- 社会人がどのような意識で仕事にとりくんでいるのかを知ることができ、その企業について深く知れたのも有意義だったと思います。充実したインターンシップでした。ありがとうございました。
- 働くことの楽しさだけでなく、仕事の成果の裏にある苦労や努力の面も知れたのがよかった。
- もう少し実務をさせていただきたかったな、という思いはあります。
- 実際の作業をもっとしたかった。
- 私の行った実習先と、コンソーシアムの取組みがあまりうまく連携できてなくて、とまどうことがありました。
- 実際に「働く」現場に行かせていただき、たくさんの経験をさせていただきました。学んだことを今後の夢に向けて活かしていきたいです。

インターンシップ・プログラムの広報

- 京都コンソーシアムだけでなく、他（府県）のコンソーシアムとも、情報を統一する必要があると思った。
- 私は、このような大学の授業の一環としてインターンシップ・プログラムがあることを、友人に聞くまで知らなかったが、参加して良かったと思う。受入れ先の方にも大変良くしていただき、ゼミで他大学の学生と交流することができて、刺激的であった。
- 今回、インターンシップを聞いたのは友人からでした。もう少し大きく広告すればもっとたくさんの人が参加すると思います。

プログレスコース

- 事前学習の途中に研修先を見学できれば、もっと事前学習を充実したものにできたと感じている。やはり実際の現場の雰囲気を知っていた方が計画も立てやすかったのではと感じる。
- 講義の時間が少し長すぎるのではないかと感じた。毎週 18 : 00-21 : 00 は少し多いのではないか。
- 実習日誌が企業のプロジェクトに合わない場合もあった
- インターンシップに参加するだけで満足するだけではなく、自ら何かを得ようとする姿勢と周囲の助言を受け入れることのできる謙虚さがあれば最大限成長できると感じた。

第4章 受講生意識調査集計結果

＜アンケート実施日＞

ビジネスコース	2012年7月7日(土)／2012年9月29日(土)
パブリックコース	2012年7月7日(土)／2012年9月29日(土)
プログレスコース	2012年7月12日(木)／2012年11月17日(土)

＜回答数・有効回答数＞

	受講生数	事前アンケート		事後アンケート	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	304	299	98.4%	295	97.0%
パブリックコース	67	65	97.0%	67	100.0%
プログレスコース	51	49	96.1%	40	78.4%
合 計	422	413	97.9%	402	95.3%

＜アンケート方法＞

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習の前後にそれぞれ同じ質問に回答する形式のアンケート調査を実施して（プログレスコースはプロジェクト開始1ヶ月後とプロジェクト終了後に実施）、実習前後における意識の変化およびインターンシップが与える影響についての調査を行った。

測定に用いた指標は表－1のとおりである。3つの質問事項をまとめて共通した意味を持つ10のグループにまとめ、10グループをさらに大きな共通項でまとめて3つの大グループを設定した。3つの大グループは社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわきまえているかについて知る「自己主体性」からなっている。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、グループごとに平均点を算出し、グラフ化して比較した（表－2）。

表-1. 意識調査の指標と平均点

実 習 前																	実 習 後					
			ビジネス		パブリック		プログラム		全体		ビジネス		パブリック		プログラム		全体					
			平均		平均		平均		平均		平均		平均		平均		平均					
A	職場の人間関係 への理解	職場の人間関係がどういうものなのかをきまえている。 仕事上の優れたリーダーシップのあり方が分かる。 職業人としての礼儀、作法を心得ている。	3.77		3.62		4.61		4.00		4.17		4.16		3.76		4.03					
			3.71		3.62		3.52		3.78		3.67		4.05		4.03		3.73					
			3.62		3.34		3.33		3.43		3.88		3.79		3.63		3.77					
			4.09		4.09		3.76		3.98		4.33		4.37		4.22		4.31					
B	組織で働くこと への理解	上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。 働くことがどういうことか知っている。	3.50		3.65		3.74		3.61		4.15		3.99		3.77		4.05					
			3.36		3.49		3.10		3.32		3.94		3.90		3.77		3.87					
			4.83		4.88		4.92		4.87		4.74		4.96		4.97		4.89					
			4.20		4.18		3.76		4.75		4.57		4.81		4.14		4.50					
C	学生と社会人の 区別	学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。 定職に就かずフリーターとしてやって行くことはいやだ。	5.28		5.43		5.31		5.34		5.23		5.46		4.94		5.21					
			3.55		3.74		4.47		3.92		3.94		4.07		3.86		3.96					
			4.39		4.17		4.06		4.24		4.35		4.15		4.06		3.96					
			4.04		3.85		4.20		4.03		3.91		3.97		4.00		3.96					
D	ジェンダー問題 への気づき	社会の裏側にある汚い面がある程度知っている。 職場に男女差別の問題があることを認識している。 今の社会では、女性が働き続けていくことは大変である。	4.08		3.86		3.67		3.87		4.09		4.00		3.78		3.96					
			4.47		4.26		4.22		4.32		4.48		4.36		4.22		4.36					
			3.75		3.82		3.49		3.68		4.00		3.94		3.77		3.90					
			3.82		4.02		4.06		3.97		4.07		3.97		4.06		4.03					
E	実行力	いろいろな困難に耐え得る精神力がある。 人間関係を通して学ぶべきを知っている。	4.08		3.99		3.97		4.00		4.20		3.84		4.01		4.04					
			4.06		4.00		3.78		3.95		4.31		4.24		4.33		4.29					
			4.05		3.94		3.98		3.99		4.22		4.27		4.25		4.25					
			4.02		3.91		3.92		3.95		4.07		4.15		4.35		4.19					
F	環境適応力	人それぞれの個性を認めることができる。 今、規則正しい生活を送っている。 毎日休まず働くことができると思う。 取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。	4.58		4.68		4.57		4.61		4.55		4.64		4.58		4.59					
			3.34		3.42		3.49		3.41		3.62		3.54		3.69		3.62					
			4.27		4.34		3.88		4.16		4.16		4.22		3.80		4.13					
			3.63		3.37		3.02		3.34		3.83		3.64		3.66		3.71					
G	柔軟な物事の 見方	自分は社会にとって必要な人間だと思う。 いつかは新しく会社をおこすことに夢見る自信がある。 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。 自分に欠けている部分をきちんと把握している。 自分の興味・関心について人に説明できる。 自分の進むべき道を十分に認識している。	3.65		3.72		3.39		3.59		3.79		3.66		3.63		3.69					
			2.91		2.72		2.41		2.68		2.95		2.73		2.74		2.81					
			3.68		3.78		3.59		3.69		3.90		3.96		3.69		3.85					
			4.07		4.37		4.39		4.28		4.29		4.27		4.59		4.39					
H	生活規律	自分の興味・関心について人に説明できる。 自分の進むべき道を十分に認識している。	4.12		4.26		4.31		4.23		4.17		4.24		4.51		4.31					
			3.39		3.46		3.57		3.47		3.59		3.81		4.03		3.81					
I	社会への コミット感	自分には新しく会社をおこすことに夢見る自信がある。 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。 自分に欠けている部分をきちんと把握している。 自分の興味・関心について人に説明できる。 自分の進むべき道を十分に認識している。	3.65		3.72		3.39		3.59		3.79		3.66		3.63		3.69					
			2.91		2.72		2.41		2.68		2.95		2.73		2.74		2.81					
			3.68		3.78		3.59		3.69		3.90		3.96		3.69		3.85					
			4.07		4.37		4.39		4.28		4.29		4.27		4.59		4.39					
J	自己理解	自分の興味・関心について人に説明できる。 自分の進むべき道を十分に認識している。	4.12		4.26		4.31		4.23		4.17		4.24		4.51		4.31					
			3.39		3.46		3.57		3.47		3.59		3.81		4.03		3.81					

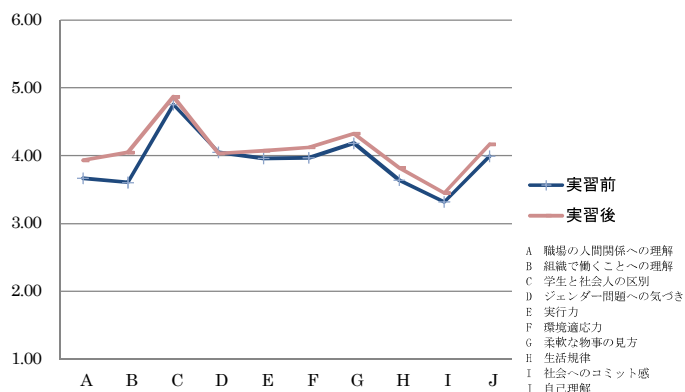
表-2. 意識調査結果(比較)

<全体>

実習前から意識の高い指標は、C「学生と社会人の区別」である。これは、インターンシップにおける受講生の成長目標と合致している。また、事前学習においても、特に注力して取り組んでいる項目であり、その成果が表れたものといえる。

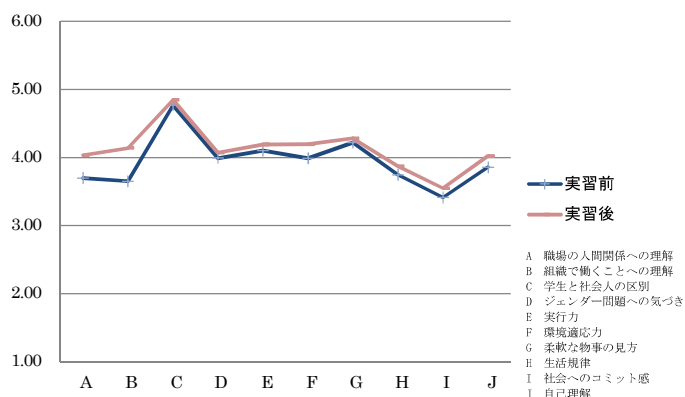
反対に、意識の低い指標は、I「社会へのコミット感」であり、特に「いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある」という指標においては意識の低さが目立つ結果となった。

実習後に意識の変化が大きく表れたといえるのは、B「組織で働くことへの理解」である。



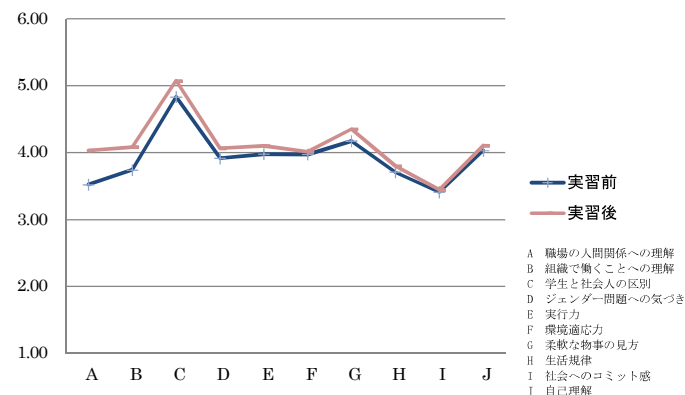
<ビジネスコース>

ビジネスコースにおいて、実習後にもっとも変化したといえるのは、B「組織で働くことへの理解」である。もっとも変化がなかった項目として、G「柔軟な物事の見方」があげられ、他のコースと比べても伸び率が低い結果となった。



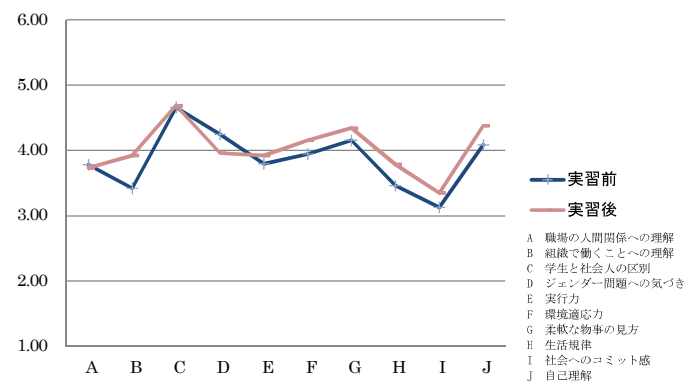
<パブリックコース>

パブリックコースにおいて特徴的な事項は、A「職場の人間関係への理解」について実習前より実習後の数値が、0.51ポイント上がっていることである。また、他のコースに比べて就職レディネスの項目において実習後の伸び率が比較的高く、反対に自己主体性の項目において伸び率が低い結果となった。



<プログレスコース>

今年度のプログレスコースにおいて、最も意識の変化が大きかったのは、B「組織で働くことへの理解」である。特に「組織がどのように運営されているのか理解している」という項目では、0.67ポイント上昇し、プロジェクトを通して、組織で働くことに対する意識を高めるという効果を上げることができたといえる。



資料編

資料1.出願・受講関係データ

資料2.ビジネスコース・パブリックコース講義概要(シラバス)

資料3.プログレスコース講義概要(シラバス)

資料4.インターンシップ実習生派遣に関する協定書

資料5.誓約書

資料6.実習状況報告書

資料7.プログレスコース プロジェクト一覧

資料8.コーディネーター一覧

資料9.エントリー団体一覧(コース別・業種別・五十音別)

資料1.出願・受講関係データ

1) コース別 出願者数・登録団体数と受講率

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	受講者数	受講率	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	621	304	59.7%	191	149	78.0%
パブリック		67		61	33	54.1%
プロGRESS	55	51	92.7%	13	6	46.2%
合計	676	422	62.4%	265	188	70.9%

2) 学年別 出願者数数と受講率

コース名	出願者		受講者		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次生	3	0.4%	0	0.0%	0.0%
2年次生	53	7.8%	40	9.5%	75.5%
3年次生	599	88.6%	370	87.7%	61.8%
4年次生	13	1.9%	7	1.7%	53.8%
大学生1年次生	7	1.0%	5	1.2%	71.4%
大学生2年次生	1	0.1%	0	0.0%	0.0%
合計	675	100.0%	422	100.0%	62.5%

3) 男女別 出願者数と受講率

コース名	出願者		受講者		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男	268	39.6%	148	35.1%	55.2%
女	408	60.4%	274	64.9%	67.2%
合計	676	100.0%	422	100.0%	62.4%

■会場：龍谷大学深草キャンパス

	日程	時間	会場	コマ数	講義名	講義形式	目標	内容	
事前学習	2012/6/16(土)	9:15～9:45 (30)	龍谷大学	コーディネーター会議					
		10:00～11:00 (60)		第1講	オリエンテーション：実習参加の心構え	全受講生合同	インターンシップの目的・趣旨・注意点の理解促進	プログラムの概要や、プログラムに臨む心構え等を説明します。	
		11:10～12:40 (90)		第2講	クラスの相互理解	ゼミ	クラスメンバーの相互理解	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をしいます。	
		13:40～15:10 (90)		第3講	実習に向けた目標と仮説設定 ＜グループディスカッション＞		実習目的の明確化、仮説の設定	グループディスカッションを中心として、実習目標と仮説設定のための意見交換を行います。	
		15:30～16:30 (60)		第4講	コミュニケーショントレーニング		社会人としての意識改革、就業意識の向上、組織の心構え、ビジネスマナーの動作の習得	社会人としての意識の持ち方、ビジネスマナーの基本、動作の訓練、対人関係の中でのコミュニケーション能力等を専門講師を招いて講習します。	
		16:40～17:40 (60)		第5講					
	受入れ先事前訪問期間：原則6月18日(月)～6月29日(金)の間に実習先を訪問し、実習内容・期間の確認や、事前学習レポート作成に向けてアドバイスなどの指導を受けます。								
	2012/6/30(土)	10:00～11:00 (60)	龍谷大学	第6講	スキルアップトレーニング	特別クラス編成	実習を行うにあたっての課題の克服	プレゼンテーションスキルやロジカルシンキングの獲得等、さまざまな分野から選択制で講習を受けます。	
		11:10～12:10 (60)		第7講					
		12:20～13:00 (40)		コーディネーター会議					
		13:10～14:40 (90)		第8講	業界と社会に対する学習① ＜ゲストスピーカーの講演＞	ゼミ	業界情報の理解促進、実習先での実習イメージの明確化、受入れ先情報収集	受入れ先担当者や修了生等のお話をもとに受入れ先について探求し、事前学習レポートの内容を深めます。	
		14:50～16:20 (90)		第9講	業界と社会に対する学習② ＜ディスカッション＞				
	2012/7/7(土)	10:00～11:30 (90)	龍谷大学	第10講	実習に向けた目標と仮説設定① ＜グループディスカッションを通した軌道修正＞	ゼミ	実習目的と仮説の修正、確定	事前学習の総まとめとして、最終的に実習目的を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。	
		12:30～14:00 (90)		第11講	実習に向けた目標と仮説設定② ＜実習直前の相互確認＞				
		14:20～15:50 (90)		第12講	リスクマネジメント講習	全受講生合同	実習中のリスクの軽減、リスク管理の重要性の理解促進	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。	
		16:00～17:30 (60)		第13講	オリエンテーション：実習にあたって		実習にあたっての最終の確認、意識喚起	実習にあたっての準備、確認・注意事項を説明します。	
実習	実習の実施（原則として8月中旬～9月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。）								
事後学習	2012/9/15(土)	9:00～10:30 (90)		補講	※クラスによって実施される場合があります	ゼミ			
		10:40～12:10 (90)							
	2012/9/29(土)	9:15～9:45 (30)	龍谷大学	コーディネーター会議					
		10:00～11:30 (90)		第14講	実習における経験交流 ＜経験の共有①＞	ゼミ	実習の振り返り、経験の共有、成長点の認識、仮説の検証、今後の学生生活への接続	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、また、事後学習レポートの内容を深めます。そのうえで、今後の学生生活の目標を明らかにします。	
		12:30～14:00 (90)		第15講	実習における経験交流 ＜経験の共有②＞				
		14:10～15:40 (90)		第16講	実習における経験交流 ＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞				
		15:50～17:20 (90)		第17講	今後の学生生活を考える ＜レポート作成に向けてのまとめ＞				
		17:40～18:10 (30)		第18講	全体講評 修了式	全受講生合同	最終のまとめと経験交流	全体による振り返りと修了証を授与します。	
		18:20～19:20 (60)		修了パーティー				受入れ先担当者・コーディネーター・受講生による懇親会 ※参加必須	

■注意

9月15日(土)は、クラスによっては9:00～12:10に補講を実施。

■事前学習レポート提出期間 7月13日(金) 10:00～17:00、14日(土) 10:00～17:00 ※場所：キャンパスプラザ京都

■事後学習レポート提出期間 10月5日(金) 10:00～17:00、6日(土) 10:00～17:00 ※場所：キャンパスプラザ京都

■会場:キャンパスプラザ京都

	日程	時間	会場	全体の流れ	回数	講義名	講義形式	内容	
プロジェクト実施期間	2012/6/14(木)	18:00～19:30	キャンパスプラザ 京都	プロジェクトの導入	第1講	オリエンテーション (長期プロジェクト型インターンシップのリスクマネジメント、 プロジェクトメンバーの相互理解)	全受講生 合同	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え等を説明します。 プロジェクトに分かれ、プロジェクトメンバー、受入れ先、コー ディネーターの紹介をしあいます。	
		19:40～21:10			第2講	コミュニケーショントレーニング		社会人としての意識の持ち方、ビジネスマナーの基本、動作の 訓練、対人関係の中でのコミュニケーション能力等を専門講師 を招いて講習します。	
	2012/6/21(木)	18:00～19:30		プロジェクト形成	第3講	修了生によるプレゼンテーション プロジェクトの経験談・アドバイス	各プロジェクト	修了生によるアドバイスを交え、プロジェクトごとに個別の課題 を解決するための講義を行います。また、プロジェクトの実施に 向け、活動計画の発表を行います。 ※内容はプロジェクトの状況に応じて柔軟に変更していきます。 他の木曜日の夜等にも、補講のある場合がありますので、 予定を空けておくようにしてください。	
		19:40～21:10			第4講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト・マネジメントの概要 -PCMの講義-)			
	2012/6/28(木)	18:00～19:30			第5講	プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン①)			
		19:40～21:10			第6講	プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン②)			
	2012/7/5(木)	18:00～19:30			第7講	プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン③)	各プロジェクト		
		19:40～21:10			第8講	プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン④)			
	2012/7/12(木)	18:00～19:30			第9講	プロジェクト・マネジメント (今後の活動の確認、活動計画の発表)	全受講生 合同		
		19:40～21:10			第10講	プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)			
	夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行います。								
	2012/10/4(木)	18:00～19:30	キャンパスプラザ 京都	フォローアップ	第11講	プレゼンテーショントレーニング	全受講生 合同	成果報告会に向け、プレゼンテーションのポイントや方法等の レクチャーを専門講師より受けるとともに、プレゼンテーション の準備を行います。 また、プログラム受講を通しての自己の変化を振り返ります。 ※内容はプロジェクトの状況に応じて柔軟に変更していきます。 他の木曜日の夜等にも、補講のある場合がありますので、 予定を空けておくようにしてください。	
		19:40～21:10			第12講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト評価方法の概要)			
	2012/10/18(木)	18:00～19:30			第13講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備①)	各プロジェクト		
		19:40～21:10			第14講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備②)			
	2012/11/1(木)	18:00～19:30			第15講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備③)			
		19:40～21:10			第16講	自己評価 (プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る)			
	2012/11/17(土)	10:40～12:10		プロジェクト報告・評価	第17講	成果報告会・修了式	全受講生 合同	約6ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに 活動報告を行います。全体で、それぞれのプロジェクトの到達 点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明らか にします。また、修了証を授与します。	
		13:00～14:30			第18講				
		14:40～16:10			第19講				
		16:20～17:50			第20講				
		18:00～19:00			修了パーティー			受入れ先担当者・コーディネーター・受講生による懇親会 ※参加必須	

- プロジェクト毎に補講、または別途ミーティングが実施される場合がありますので、ご注意ください。
(特に、木曜日は上記日程以外でも実施される場合がありますので、予定を空けるようにしてください。)
- 学習レポート提出期間:11月30日(金)10:00～17:00、12月1日(土)10:00～17:00

資料4.インターンシップ実習生派遣に関する協定書

2 乙は、必要に応じて実習生に学生教育研究災害傷害保険に加入させるものとする。
(その他)

第10条 この協定に定める事項で疑義が生じたとき、又は、この協定に定めるもののほか必要な事項については、甲乙丙協議のうえ定めるものとする。

この協定書は3通作成し、甲乙丙それぞれ記名押印のうえ、各自1通を保有するものとする。

2012年 月 日 (通称に記名押印する「甲」が押印日を入れる)

甲 株式会社●●●●●
(住所)

(代表者)

印

乙 ●●●大学
(住所)

(代表者)

印

丙 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
(住所) 京都市下京区西洞通堀小段下る東塩小路町939 キャンパスプラザ京都内

(代表者) 理事長 八田 英二 印

インターンシップ実習生派遣に関する協定書

株式会社●●●●● (以下「甲」という。)、●●●大学 (以下「乙」という。)) および公益財団法人 大学コンソーシアム京都 (以下「丙」という。)) は、2012年度インターンシップ実習生派遣に関する協定を次のとおり締結する。

(実習生)

第1条 インターンシップ実習生 (以下「実習生」という。)) は、●●●●● とする。

(実習生の身分)

第2条 甲は、実習生の身分について、乙の学生の身分を保有したまま受入れるものとする。

(実習期間)

第3条 実習生の実習期間は2012年8月1日から2012年9月14日までの間とする。ただし、必要あるときは甲丙協議のうえ実習期間を変更することができる。

(実習内容)

第4条 実習生の実習内容は、甲の業務に関するものとする。

(実習時間)

第5条 実習生の実習期間中における実習時間は、原則として甲の定める就業時間に基づきとする。

(賃金等)

第6条 実習生に対する賃金、通勤手当等は、甲が特に定めない限り無報酬とする。

(秘密保持)

第7条 乙および丙は、実習生が実習期間中に甲において知り得た秘密事項 (顧客取引情報等) については、実習期間中および実習期間終了後を問わず、その一切を漏らさないよう、また、実習以外の目的に利用することなどないよう指導を徹底する。

2 甲乙丙は相互に実習生の情報や受入先の顧客取引情報等、個人情報の取り扱いに関して個人情報保護法を遵守する。

(実習生に対する処分)

第8条 実習生が前条に違背するなど、信頼に反する行為を行ったときは、甲は速やかに丙に、丙は乙に報告するものとする。

2 実習生に懲罰に反する行為があったときは、甲は実習を中止することができるものとする。

3 乙は、丙から本条第1項に定める報告を受けたときは、事実確認等を経て、実習生に対して謹慎、停学、退学等の乙の規定する措置を行うものとする。

(保険の加入)

第9条 丙は、実習生に普通傷害保険および個人賠償責任保険に加入させるものとする。

資料5.誓約書

2012年 月 日

様

大 学 名 :

受講番号 :

氏 名 : 印

誓 約 書

このたび私は、公益財団法人 大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムにより、インターンシップ実習生として実習することとなりました。
このうえは、以下の事項を厳守して誠実に実習をまっとうすることを誓約いたします。

記

- 一、実習先提出票の記載内容は相違ありません。
- 一、就業規則、その他の諸規則を固く守ります。
- 一、実習において知り得た情報は、実習期間中・後を問わず一切他言いたしません。
また、それらの情報を実習以外の目的に利用することや、名誉毀損などに関わる行為は行いません。
- 一、実習担当責任者の指揮及び監督に従います。
- 一、職場秩序を守り、実習生として品位品格を損なうことはいたしません。
- 一、無断で欠席、遅刻、早退はいたしません。やむをえない場合は、必ず実習担当責任者に連絡いたします。
- 一、業務の都合上、実習時間及び実習日の変更がある場合にも、これに従います。
- 一、実習に先立ち、普通傷害保険及び個人賠償責任保険を契約いたします。

以上

※この書類はサンプルです。実物は実習初日に実習生がお持ちします。

資料6.実習状況報告書

(実習先担当者様→事務局 FAX : 075-353-9121)

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
2012年度インターンシップ・プログラム 実習状況報告書

受講番号		実習生氏名	
------	--	-------	--

*実習先担当者記入欄	受入れ企業・団体名	
	実習先・セクション	
	実習期間	2012年 月 日 () ~ 月 日 ()
	出勤状況 (該当に■)	出勤予定日数 () 日間 □全日出勤、□欠勤 () 日 理由:
	実習状況 (該当に■)	□大変良好、□良好、□普通、□やや不良、□不良 <コメント>
	指導責任者氏名	所 属: 氏 名:

実習先担当者様へ

実習終了後、実習先担当者記入欄に、実習生の実習中の出勤状況や実習状況等の必要事項をご記入のうえ、原本を貴社・貴団体において保管していただき、写しをFAXもしくは郵送で大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室へお送りください。<インターンシップ・プログラムの成績判定等に活用しますので、必ずお送りくださいますようお願いいたします。>

資料7. プロGRESSコース プロジェクト一覧

受入れ先名	取組み目的	プロジェクト名および概要
株式会社インテリジェンスオフィス	・大学生を受け入れることにより、職場を活性化。 ・アルバイト・社員採用いずれにも深く関わってくる「大学生」の生の声を社内で聞くことが出来る意味も、大変大きい。 ・インターンを通じて優秀な学生に弊社の理念や大事にしていることを知ってもらうことを通じて、就職活動や進路など学生の将来に活かしてもらう機会を作ることにもつながりたい。 ・成果としては、フリーペーパーの発行・京都ヒトナビカフェでのイベントの開催。	【ヒトナビ・インターンシップ】 京都ヒトナビカフェでの活動を通して、“働く”ということを学びます。フリーペーパーの発行や京都ヒトナビカフェでのイベントの開催に携わります。
京都サンガF.C.	・京都サンガF.C.(プロクラブ)の活動を知って頂けることで、スポーツがもたらす力を多くの方へ広める事ができる。 ・イベントの企画等を通じて新たな発想や考え方をクラブ全体で共有することができる。 ・多くの学生と活動するにあたり、新たな人材との出会いの場となります。 ・コミュニケーション能力や柔軟な考え方、様々な業種・年代の方と接する事で社会の動きや仕組みを理解しながら対応していく力を身につける。 ・プログラムを通じて社会の流れや仕組みを理解し、プロクラブでの考えやこれからの生活に経験を活かしてもらう。 ・京都サンガファミリーの拡大。	【サンガカレッジ2012】 プロスポーツクラブを舞台に、サマーキャンプの企画・運営を行うとともに、ホームゲームの運営やサッカースクールのコーチ実習を行います。
京都府教育委員会	・大学生のうちから学校現場で教員の仕事に関する経験を積むことにより、将来の教育を担う若手として活躍できる人材の育成に資する。 ・目的意識・意欲の高まり ・教員としての自身の課題の明確化 ・学校現場における様々な場面を経験するとともに、その都度、指導教員と振り返り学習を行うことにより、実践に基づいた指導力が向上 ・教員を目指す学生の実践的指導力の向上をねらいとしている。また、学生を受け入れ指導することは、学校の活性化にも寄与するものと考えている。	【教員養成サポートセミナー】 教員を目指す大学生が、学校現場での演習を通して理論と実践を結びつけ、実践的指導力を身に付けていくことを目指します。
特定非営利活動法人 子ども自立の郷 ウォームアップスクールここから	・インターンシップ生との関わり、又その中で見せる子どもの新たな表情等に触れることで、新鮮な気持ちに戻り、観察力を高め、関わる力、指導力を高めることができる。 ・インターンシップの活動を通し、年齢の近い身近な存在の学生と、「ここから」の生徒が触れ合うことで、刺激が与えられ、成長のきっかけとする。 ・日頃なかなかできないダイナミックな活動を、試行錯誤をくり返ししながら、目標に向かっていく面白さや、ワクワク感を身体全体で味わい、その中で多くの幅広い年齢の人と関わることを通じて、問題解決をしていく疑似体験となる。 ・茶わん祭りの由来となる丹生の土での焼き物(丹生焼)を開発することによる地域貢献ができる。 ・地域の人に「なにかおもしろいことを始めた…」と感じてもらうことで、少しでも地域の刺激となれば、と考える。 ・宿泊を通じた深い関わりの中で、働くことの大変さ、面白さ、意味を感じてもらい、これからの自分達の進路に大いに活かしてもらうことができる。 ・普段関わることのない年齢層の方々と触れ合い、また希薄になっている「地域とのつながり」を体感してもらうことで、新たな感性を養うことができる。 ・今まで誰も手がけていないことを、自分達で掘り起こしたり、作り上げたプログラムが完成するという充実感と、それが地域の人の役に立つという満足感を味わうことができる。 ・寄宿制の自立支援施設という「ここから」の実態を見ることで、さまざまな職種の仕事があることを知ることができる。 ・指導員と共に同じ仕事をする事で、指導する者、仕事をする者としての自分のあり方が問われ、今までの生き方や自分を見つめ直す良いきっかけとなる。 ・インターンシップ生には、当法人の今年の重要課題である、子どもの体験活動の新たな開発と、地域貢献の為に「丹生焼」の再生を目的として、自分達で探し掘り出した丹生の土で、昔ながらに野焼きで陶芸をするという体験活動の原点が味わえる、企画・広報・実施をしてもらう。 ・活動を企画する中で、茶わん祭りの起源に迫ったり、どの地区にどんな土があり、どの土がどういう配合で合わせると、うまく焼きあがるかなどを研究、検証、記録していく。 ・これを機会に、茶わん祭りや丹生焼の再生から、地域の活性化をはかるきっかけとする。	【Originをたどれ!!土探しからはじまる自然体験教室 ～奇祭・茶わん祭りのふるさとに伝わる『丹生焼』復元計画2012～】 準指導員として、『茶わん祭り』に伝わる幻の「丹生焼」復活による地域貢献と、新しい陶芸体験活動のプログラム企画・実施を、指導員・生徒・地域の方々と共に行います。
特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター	・普段の活動において、学生が持つ若い力と考え方が、我々組織の活性化に繋がる。 ・学生目線の考え方で作る事業が、継続事業の活性化に繋がる。 ・市民活動を、若い世代に体験してもらうことにより、市民活動の底辺が広がる。 ・企業とは違い、利益を追求しないという考えで行う事業を、企画段階から組み立てることにより、企画・準備・運営・反省・報告と言う、事業を組み立てる上での作業手順を学ぶことができる。(失敗時におけるリスクが少ない) ・様々な世代との協働で、事業を組み立てることにより、世代間交流に繋がる。 ・市民活動を行なっている様々な団体の活動に直接触れることができる。 ・バイトとは違い、対価の無い関係でのリーダーシップを学べる。 ・企画を学生が行なうことにより、幅広い年代をターゲットにした企画がそろう。 ・当団体以外の、各団体と活動してもらうことで、各団体への刺激になる。 ・若い柔軟な発想が、組織の活性化につながる。 ・重要事業ではあるが緊急課題で無い事業、を遂行してもらうことで、法人としての活動の幅が広がる。	【市民活動をイベントで支えるプロジェクト】 ひらかたNPOフェスタ2012における、イベントを企画立案し、イベントリーダーとして、準備・運営・反省・報告までのすべてを行います。
株式会社弘	・お客様満足度の向上 ・アルバイト学生の活動効率改善 ・会社としてのPCM手法習得 ・大学生に対する株式会社弘の認知度向上 ・課題解決に向けた論理的思考能力の習得とその実務経験を積むことが可能(本プログラム自体、及び業務改善会議の内容の双方の経験により) ・ファシリテーション技能の習得 ・人を巻き込む力の習得 ・サービス業・企画・コンサル系業務を目指す学生にとっては、リアルに業務を実践できる機会になる。 ・店舗改善活動結果 プレゼンテーション資料の作成(～11月) ・プログラムの継続により、レポートを比較、中長期的視野での改善	【飲食店アルバイトスタッフに向けた課題解決コンサルティング(成果とやりがい)を創出する】 学生アルバイトによる業務改善会議の運営をサポートすることで、アルバイト学生が取組む活動を通じてお客様の満足度を改善し、PCMを実践します。

資料8. コーディネーター一覧

(敬称略)

コース	クラス	氏 名	大 学	所 属 等
ビジネス	B- 1	岡本 博公	同志社大学	商学部
ビジネス	B- 2	高島 知佐子	京都外国語大学	外国語学部
ビジネス	B- 3	蒲生 孝治	京都女子大学	現代社会学部
ビジネス	B- 4	辻田 祐純	京都府立大学	キャリアサポートセンター
ビジネス	B- 5	天野 勝重	大谷大学	文学部
ビジネス	B- 6	小山 裕子	京都府立大学	キャリアサポートセンター
ビジネス	B- 7	吉田 咲子	京都光華女子大学	キャリアセンター キャリア教育推進室
ビジネス	B- 8	藤木 潤司	龍谷大学	経営学部
ビジネス	B- 9	山内 雄気	同志社大学	商学部
ビジネス	B-10	中村 邦義	京都産業大学	法学部
ビジネス	B-11	井上 一郎	京都産業大学	経営学部・大学院マネジメント研究科
ビジネス	B-12	岸 基史	同志社大学	経済学部
ビジネス	B-13	加藤 敦	同志社女子大学	現代社会学部
ビジネス	B-14	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
ビジネス	B-15	原 雄一	京都学園大学	バイオ環境学部
ビジネス	B-16	佐々木 厚司	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
ビジネス	B-17	石崎 祥之	立命館大学	経営学部
ビジネス	B-18	山田 廣己	京都産業大学	大学院法務研究科
ビジネス	B-19	○ 三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
ビジネス	B-20	金光 淳	京都産業大学	経営学部
ビジネス	B-21	長沼 健	同志社大学	商学部
ビジネス	B-22	遠藤 敏幸	同志社大学	商学部
ビジネス	B-23	黒田 健二	京都聖母女学院短期大学	生活科学科
パブリック	P- 1	河村 能夫	龍谷大学	
パブリック	P- 2	○ 河村 律子	立命館大学	国際関係学部
パブリック	P- 3	井上 摩紀	大谷大学	文学部
パブリック	P- 4	李 為	京都産業大学	経営学部
パブリック	P- 5	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際文化学部
プロGRESS	—	渡邊 博己	京都学園大学	法学部
プロGRESS	—	西村 雅信	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
プロGRESS	—	松永 敬子	龍谷大学	経営学部
プロGRESS	—	牧崎 幸夫	龍谷大学	文学部
プロGRESS	—	舟橋 和夫	龍谷大学	社会学部
プロGRESS	—	申 昌浩	京都精華大学	人文学部
プロGRESS	—	○ 谷口 知弘	同志社大学	
プロGRESS	—	○ 山本 建太郎	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
プロGRESS	—	○ 河村 能夫	龍谷大学	

◎：総合コーディネーター ○：チーフコーディネーター

資料9.エントリー団体一覧(コース別・業種別・五十音順)

<ビジネスコース>

【建設・不動産】

株式会社アーキエムズ
大阪ターミナルビル株式会社
株式会社学生ハウジング
京都駅ビル開発株式会社
株式会社ジェイ・エス・ビー
有限会社一級建築士事務所ターボ設計
株式会社ダン計画研究所
株式会社長栄
株式会社ディー・エー・シー
西日本高速道路株式会社
株式会社フラットエージェンシー
株式会社類設計室
株式会社ローバー都市建築事務所

【製造】

愛知株式会社
株式会社石田老舗
株式会社老松
株式会社加貫ローラ製作所
株式会社川勝總本家
株式会社貴久樹
有限会社共同設計企画
株式会社京都科学
株式会社キョーバル
キンシ正宗株式会社
月桂冠株式会社
住友精密工業株式会社
寺崎電気産業株式会社
株式会社西嶋製作所
日華化学株式会社
日新電機株式会社
日本新薬株式会社
株式会社ノーリツ
平和工業有限会社
株式会社堀場製作所
マルホ発條工業株式会社
株式会社壬生電機製作所
株式会社村田製作所
桃谷順天館グループ

【情報・通信・マスコミ】

アトム株式会社
株式会社あんどシステム

株式会社おいかけ
株式会社大塚商会 関西支社
株式会社キイストン
株式会社教育ソフトウェア
株式会社京都新聞社
株式会社京都放送
協和テクノロジーズ株式会社
株式会社SIGEL
株式会社総合システムサービス
高槻ケーブルネットワーク株式会社(株式会社ジュピターテレコム)
株式会社DNPデジタルコム
株式会社電話放送局
東映株式会社 関西支社
東映株式会社 京都撮影所
バルトソフトウェア株式会社
株式会社表現
三谷商事株式会社
株式会社ロックウェーブ

【運輸・流通】

株式会社エルムンドトラベル
株式会社JTB西日本
株式会社塚腰運送

【卸売・小売・販売】

株式会社鼓月
株式会社佐野
三共精機株式会社
株式会社ジェイアール西日本伊勢丹
秀和株式会社
株式会社ジュンク堂書店 京都店
株式会社聖護院ハッ橋総本店
生活協同組合コープこうべ
ダイイチ株式会社
つるやゴルフ
TMC JAPAN AUTO INC.
株式会社富田屋
株式会社西浅
株式会社西利
株式会社花工房
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 関西社
株式会社ヒトミ
富士ゼロックス京都株式会社
株式会社ミル総本社
八洲薬品株式会社

【金融・保険・証券】

株式会社葵総合保険
株式会社エスアールエム
SMBC日興証券株式会社
株式会社京都銀行
京都信用金庫
京都中央信用金庫
有限会社近畿総合保険
株式会社滋賀銀行
全労済中日本事業本部
株式会社損害保険ジャパン
野村證券株式会社 京都支店
三井住友海上火災保険株式会社

【飲食・宿泊】

ウェスティンホテル大阪
ウェスティン都ホテル京都
株式会社プリンスホテル 大津プリンスホテル
京都ブライトンホテル株式会社
グランドプリンスホテル京都
株式会社グルメ杵屋
里湯昔話雄山荘
ハイアットリージェンシー京都
藤田ホテルマネジメント株式会社 京都国際ホテル
株式会社ホテルグランヴィア大阪
株式会社ロイヤルホテル リーガロイヤルホテル京都
株式会社ロイヤルホテル(リーガロイヤルホテルグループ)

【医療・福祉】

医療法人財団康生会武田病院
社会福祉法人行風会
医療法人社団千春会
洛和会ヘルスケアシステム

【教育】

大谷大学
京都外国語大学 京都外国語短期大学
京都学園大学
京都工芸繊維大学
京都産業大学
学校法人京都産業大学 すみれ幼稚園
京都女子大学
京都大学
京都ノートルダム女子大学
京都文教大学
京都薬科大学
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
学校法人大和学園
同志社女子大学

同志社大学
佛教大学
立命館大学
龍谷大学

【土業】

司法書士法人F&Partners
大阪社労士事務所
特許業務法人京都国際特許事務所
中央ビジネスグループ
中村利雄法律事務所
プロタッグ・パートナーズ税理士法人
株式会社みやこ不動産鑑定所

【出版・印刷・広告】

株式会社あおぞら印刷
株式会社エトレ
株式会社エフアイシー
株式会社関広
株式会社京都通信社
有限会社くらむぼん出版
大光宣伝株式会社
株式会社ディライツ広告事務所
株式会社図書印刷同朋舎
株式会社ビードリーム
株式会社貿易広告社 大阪支社

【人材ビジネス】

有限会社アプリ
株式会社インテリジェンスオフィス
オムロンパソネール株式会社
株式会社キャリアパワー
株式会社ジェイ・エス・エル

【サービス業・その他】

株式会社アイアム・ダスキンフクエ
嵐山通船株式会社
株式会社イーサーブ
株式会社エイジェイクリエーション
株式会社エクセ
オーパルオブテックス株式会社
株式会社日建設計
かみなか農楽舎
キノンビクス株式会社 京都営業所
協栄ビル管理株式会社
株式会社京鐘
株式会社京都映画センター
京都エレベータ株式会社
京都商工会議所

京都精華大学 京都国際マンガミュージアム
京都生活協同組合
株式会社京都メディカルクラブ
近建ビル管理株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社(志摩スペイン村)
草津商工会議所
株式会社くろちく
サンスイコンサルタント株式会社
しあわせ総合研究所グループ
株式会社ジイケイ京都
株式会社高浄
高見株式会社(TAKAMI BRIDAL)
株式会社地域社会研究所
株式会社地域未来研究所
株式会社テスパック
西陣織会館
株式会社乃村工藝社
株式会社ビーイング
非営利株式会社PTA
株式会社Hibana
公益財団法人びわ湖ホール
株式会社マザーネット
有限会社丸益西村屋
ミキハウス子育て総研株式会社
株式会社三菱総合研究所
株式会社やまざき
株式会社やまびこ
ワタベウェディング株式会社

<パブリックコース>

【官公庁】

芦屋市
綾部市役所
宇治市役所
近江八幡市
亀岡市役所
京田辺市役所
京都国立近代美術館
京都市役所
京都府庁
京都府立るり溪少年自然の家
近畿経済産業局
草津市役所
滋賀県庁
城陽市
摂津市
豊中市伊丹市クリーンランド
長岡京市役所
南丹市教育委員会
東近江市役所
彦根市
福知山市役所
向日市役所
守山市役所
野洲市役所
八幡市役所
栗東市役所

【非営利組織(NPO・NGO等)】

特定非営利活動法人アジアボランティアセンター
特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
財団法人宇治市福祉サービス公社
大阪高齢者生活協同組合
財団法人大阪市女性協会
大阪市立総合生涯学習センター
一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団
特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会
特定非営利活動法人気候ネットワーク
NPO法人木野環境
特定非営利活動法人京都子どもセンター
公益財団法人京都市国際交流協会
京都市野外活動施設花背山の家
公益財団法人京都市ユースサービス協会
財団法人京都ゼミナールハウス
京都府地球温暖化防止活動推進センター
一般財団法人京都ユースホステル協会

公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
特定非営利活動法人子ども自立の郷ウォームアップスクールここから
シチズンシップ共育企画
NPO法人スポーツネットサッカークラブ
多文化共生センターひょうご
特定非営利活動法人チャイルドライン京都
特定非営利活動法人伝統みらい
特定非営利活動法人与ななか市民環境会議アジェンダ21
公益社団法人長浜観光協会
NPO法人のあつく自然学校 大阪校
特定非営利活動法人ハニー・ビー
NPO法人ビーブルアクティブライフ
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
一般社団法人比良里山クラブ
特定非営利活動法人びわこ豊穡の郷
NPO法人まんぼう
京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター)
特定非営利活動法人結芽

<プロGRESSコース>

株式会社インテリジェンスオフィス
学生情報センターグループ・株式会社ナジック・アイ・サポート
特定非営利活動法人気候ネットワーク
京都サングF.C.
京都府教育委員会
キンシン正宗株式会社
特定非営利活動法人子ども自立の郷ウォームアップスクールここから
コンセプトグラマー有限公司
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
株式会社ナスカ
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
株式会社弘
株式会社ユメコム



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL:(075)353-9106 FAX(075)353-9121

<http://www.consortium.or.jp>